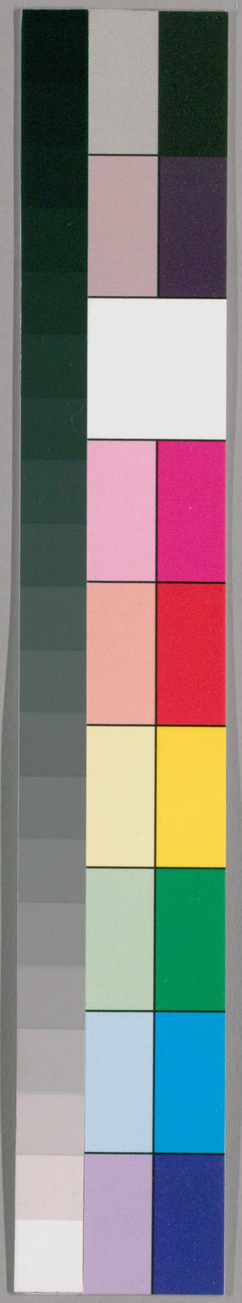
一白圃

草木画譜

貳

特 7
2
50



国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50

ガラス使用

特7-50

# 一白圃齋藤兼光著

# 一白圃艸木畫譜

貳

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

ハマエンドウ

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50

ガラス使用

百十

山穭豆

カマキリサウ

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50

ガラス使用

苦參
クラヽ

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

坐努草
ツリフネサウ

坐努草
ツリフネサウ

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50

ガラス使用

黒葵 名アラヘ

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50

ガラス使用

紫花地丁　スミレグサ

錦葵　ゼニアヲイ

結球

紫花地丁　スミレグサ

結緑

紫花

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50

ガラス使用

紫花地丁一種

タチスミレ

ツルスミレ
スモトリ巻

紫花地丁 スミレハナ

紫花

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50

ガラス使用

# 紫花地丁一種

タチスミレ

ツルスミレ
スモトリ谷

肥後阿蘇山産
キスミレ

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50

ガラス使用

鼓子花
チーシルカヲ

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

金瘡小草 キランサウ

紅花

白花

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50

ガラス使用

# 旋花

ヨヒルガホ

# 金瘡小草

キランサウ

紅花

紫花

白花

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

青雨桔梗

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50

ガラス使用

糸桔梗

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50

ガラス使用

劉寄奴

ハルサキノアハダノチサウ

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50

ガラス使用

特
5

UNIQUE JOURNAL HORTICOLE JAPONAIS

# 日本園藝會雜誌

第九號

明治二十二年十二月三十日發兌

# JOURNAL
OF THE
JAPANESE HORTICULTURAL SOCIETY.

DECEMBER 1889.

All correspondence as to this paper and the society should be addressed to Mr. S. Yoshida, No. 8 Iidamatchi Rokutchome Tokio (Japan).

# JOURNAL
DE LA
SOCIETE D' HORTICULTURE DU JAPON.

DECEMBER 1889.

S adresser, pour tout ce qui concerne le Journal et la Société, à M. S. Yoshida No. 8 Iidamatchi Rokutchome Tokio (Japon).

# ZEITSCHRIFT
DER
JAPANISCHN GARTENBAU GESELLSCHAFT.

DECEMBER 1889.

Geliefert an H. S. Yoshida, No. 8. Iidamatchi Rokutchome Tokio (Japon), alles, was auf die Zeitschrift und die Gesellschaft den Bezug hat.

Prix de l' abonnement: UNAN: 1 yen 20 sen, plus frais de port pour l' Etranger.

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

○日本園藝會雜誌第九號目次


◎園藝錄事
○觀菊の御宴
○在佛德田氏の書信
○日本にある植物
○株樹法
○巴理万國博覽會褒賞授與式
○巴理万國園藝公議會紀事
○エイザレユリに付て
○碧花の菊
○齋藤翁百畵譜略傳
◎統　計
○輸出入高
◎說　林
○年中園事
○西洋園事歷
○歐洲庭園沿革略說
○佛國ウベルサイユ國立園藝學校紀事
○印度園藝一斑
◎問　答
◎本會紀事
◎廣　告



明治廿二年十二月三十日印刷
仝　三十日出版



版權所有



編輯兼發行者　東京狗町區飯田町六丁目八番地　吉田進
印刷者　東京芝區三田四國町三番地三田印刷所內　中村清躬
發行所　東京々橋區新富町五丁目十七番地　日本園藝會事務所




## ○園藝錄事

### ○觀菊の御宴

左の一篇は會員某か辱けなくも觀菊御會に參觀被仰附し話しを書取りたるものなり

當日ノ御式ハ諸新聞紙上ニ掲載アレハ略シ之ニ洩ルヽ件々ヲ陳ヘンニ

先ツ式場青山御所廣足御庭ニ幅三間長三十間ノ立會所アリ柱桁トモ青杉葉ヲ以テ之ヲ包ミ之ニ紅色ノ菊花ト紅白ノ南天ノ實ヲ點々裝ヒ天井ハ雪ノ如キ白木綿ヲ張リ周圍ニ緋緞子ノ幕ヲ張詰アリ其內ニ至尊ノ玉座ハ東ノ一ニアリ其他コーヒ所五間三間前ノ如ク裝ヒアリ本所一本造リ御花壇ハ桁行十二間梁間二間一尺ニシテ組立花壇トナリ天井蠟引障子ノ方御簾張其壯觀筆紙ニ盡クシ難シ西京大菊ヲ手繩染ニ植込ミ表面緋緞子ノ幕ヲ張リアリ其菊花ノ種類ハ六十四種株數四百二十四株ナリト其名稱ハ左ノ通ニシテイツモナカヲ殊ニ目立ツモノハ打出ノ濱、金龍閣、初雪等ニシテ何人モ賞贊セサルモノナシ只惜ムラクハ冠ノ組、黑戶、諸之岡等ノ上花ハ今年見ヘス實生ニ聞ナレサル名前ノ二三種アリト以上何レモ花ノ直徑一尺以上一尺五寸前後ノモノナリ又憾ラクハ葉ノ取扱荒キタメカアタラ葉ヲ損セシモノ少々ナラサルハ美玉ニ瑕ノ思アリ

青山御庭一本造リ

紅葉狩　初雪　靜機山　錦の袖
園の月（實生）　ミタキの友（實生）　夕襟
はゝその森　代々寶　龜の尾山　秋の山路
群時雨　打出の濱　香爐峯　千羽鶴
となせの瀧　銀世界　紅葉錦　初冠
あけ卷　薄霞　金浦　明ケの空
雲井　金龍閣　月の友　からくみ
君か代　島の內　蜻蛉　をきつ波
朝ゐかみ　月の都　園の友（實生）　朝日波
南の山　眞葛原　箒火　星の光リ
薄雪　夕日影　園の遊　時雨の簑
露の下染　玉垂　双白鶴　翁の舞

二〻見か浦　床の山　大鳴戸　夜光の玉
星月夜　御所車　君の惠　嵯峨の秋
雪の晨　園ノミタテ（實生）　霜夜葉
岩清水　白瀧　うたかた
武藏野　月の笠

六十四種〇四百二十四株

又同御花壇へ向ヒ左リ即チ式場ヨリ入口ノ方大造リ三鉢アリ盆栽ニテ何レモ八尺以上花數無慮各五百以上ト見受ケタリ之ト駢ヒテ接木菊ノ一花壇桁行十間幅九尺此レハ小菊ニ大菊大菊ニ小菊種々接キ合セタルモノニシテ甚タ賞賛スルモノ多ク僅々十六七株ニ菊ノ種類數種ヲ接掛シ其丹精實ニ想像ノ外ナルヘシ

以上培養人ハ先年西京ヨリ菊培養トシテ御雇上相成タル園丁安井宗十郎ナルモノヽ擔當セシモノヽ由

又同所ト差向ヒ東京菊ノ一花壇アリ此ハ桁行十五間梁間二間四尺ノ大花壇ニシテ菊ノ種類五十七種百二十株植アリト云即チ畦數五段植込前揃高サ三尺位ヨリ順次裏高ニ致シ最高七尺五寸アリ數年ノ經驗ニ經驗ヲ重子テ此ノ長短ヲ計ルハ實ニ三百六十餘日一日ノ如キ丹精ト言サルヲ得ンカ又其名稱左ノ通リニシテ其內最モ上花ハ蘆田鶴、嵯峨ノ奥等ニシテ何レモ今ヲ盛リト綻ヒ見ヘタリ

青山御所大花壇

友白髪　明の空　雪の夕暮
納言の棹　圓頂　水魚の友
藤坪　白髪　篝火
珊瑚盃　朝いかみ　二見ヶ浦
比良の峯　江戸紫　殘月
蘆田鶴　寒山拾得　衛士の篝
嵯峨の奥　越の雪　あしの友
東錦　樗の露　小島ヶ崎
金花山　薄露　遊仙窟
櫻川　佐の渡　秋の山路
朝日山　白鶴　玉簾
黃金の露　仙客ノ友　花かたみ
探山楓　初雪　白山
摺の雪　字津せかへ　黃金塊



代々寶
花かい
闇ゑらす
黃昏
霧の中道
あかほし
黃白毬
寒雪山
日の出
明保野
雪の曙
乙女の袖
天か下
黃寶山

マサリシ此レモ矢張リ安井宗十郎氏ノ擔當ナリト其名稱種類ハ左ノ通リ

初櫻
をだまき
翁の舞
稻瀨川
初時雨
假寢の夢
宇治の里

二十八種〇五十三株

同所ニ色ノ手ニ打曲リテ桁行十七間梁間三間庇シ一間餘ノ大花壇アリ種類ハ青山大花壇ニ彷彿シ二三ノ上等種ヲ見受ケタリ此ノ造人ハ保坂四郎衛門ト申ス人ニテ實ニ十有五年餘一日ノ如ク御苑ノ菊花ヲ擔當セシ由去レハ花ヲ見テ菊花ノ名稱ヲ知ルハ左程珍シヽトモ思ハサルカ此ノ人ハ如何ナル菊ニテモ大体菊形ヲ見テ名稱ヲ鑑別スル由或人話セリ共內上花ハ越ノ雪、霜夜ノ葉、開闢等ニシテ菅原ハ見ヘスナトヽ呼フ人アリ此

遣池御花壇嵯峨菊ノ部

江南春　雛黃鳥　玉の浦
澄田川　濱千鳥　乙女の舞
明石の浦　幾昔　花かつら
舞紅雀　東雲　黃金錦
待乳山　時計東　玉垣
霜の葉　友白髪　大和錦
金衣　羽衣　初音

以上造人ハ美濃部守正北村仙之助ノ由ニテ何レモ東京產ニテ菊花培養ノ經驗不淺ヘシ

以上青山御庭ノ分

夫ヨリ下リテ遣池御庭ノ入口ニ至レハ桁行十間梁間一丈ノ嵯峨菊御花壇アリ上屋ノ構造ハ一本造ニ似テ小ク前ハ手スリ竹ノミナリ菊種類ハ二十八種程見テ其內ニ玉ノ浦、總角、舞孔雀等最モ多ク植込ミオリ此菊花最モ高聞ナリト賞賛スルノ聲多ク又ハ昨年頃最モ拜觀人ノ賞賛セシ明石及布引等ハ見受ケサルヲ遺憾ナリト呼フ人アリ併ナカラ殊ニ目立チテ珍敷ハ大和錦ニシテ左ナカラ名實符合眞ノ錦モ之ニハ及フマシト賞賛止





国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

ハ培養ノ都合ナルヘシ一体群ナク咲キ揃ヒタルハ流石ニ老練ノ上結立ノ手際ナルハイツモナカラ敬服ノ外ナシト拜觀諸君話シ居レリ其ノ種類名稱ハ左ノ通リナリ

蓮池御花壇

流星　朝日影　襤褸錦　錦木
越の雪　白髮　玉兎天香　水魚の友
猩々　車返　紗絨　薄霞
秋風　羽衣の舞　朝ゐかみ　樗の雪
入日錦　三保ヶ崎　鏡山　入日
朝日鶴　踊布袋　横雲　蔦の細道
唐錦　稻笹原　黃金鈴　蘆田鶴
霜夜葉　寢覺里　一花衣　儀宴盃
泰平樂　大海波　花莚　唐織
初雪　いさり火　沖津波　篝火
司紅　手綱染　山吹の瀬　開闢
地球儀　小島ヶ崎　うたかた　冬山路
東錦　玉津島　雲ノ林　鳥襷
早稻旭　黃金界　黃昏　櫻川
雪の夕暮　佐保川　月の桂　名取川
金峯山　東錦　蘆田鶴　床の山
小柴垣　玉津島　霞の衣

三十一種〇五十二株

以上組立花壇臺ノ外ノ構造ハ柱桁トモ杉丸太溝堀組立目障リノ箇所ハ鐵棒筒ヲ柱トナシ客中垂木ハ七八寸青竹ヲ用ヒ家根葭簀二枚重ノ内ヘ油紙敷込ヲモ屋庇シトモ押緣四ツ目致シ棟飾リ七八寸竹ニ胡麻穗ノ簀挽入取付染太櫻櫚繩ニ結立後ロ三方葭簀圍ニ致シ胴緣押緣取付前側左右ヘ打廻シ尺以上手摺竹取付染櫻櫚繩ニテ飾付其庇シ下ヘ紫色大幅縮緬四布幕ヲ取廻セリ所々結立ノ事其他詳細ノ談話アレトモ本會ニ關係ナキヲ以テ爰ニ省略ス

## ○在佛德田氏の書信

左の一篇は曩きに日本植物出品の爲め佛國大博覽會へ出張したる德田氏の書信を摘載するものなり

前略此度日本園藝出品ニ付テハ當地ニテハ珍奇ノ廉ヲ以テ至テ評判宜敷候

日本出品植物ハ悉ク枯レタル樣ニ聞ヘ候得共蘇鉄抔ハ殆ント

蝦夷錦　月の友

五十八種〇百三十二株

夫レヨリ蓮池二ケ所ノ橋ヲ渡リ圓山ニ入レハ入口ノ左ニ大造リ一花壇アリ中薄霞右ニ地球儀左ニ双白鶴何レモ花數百餘ニテ甚タ多カラサルモ花徑六寸餘ニテ即チ大菊ノ種類ヲ大造リセシモノニシテ又實ニ觀賞ニ堪タリ併シ乍ラ双白鶴ハ蟲害ノ爲メカ過般腐蝕セシハ遺憾ト言フヘシ折曲リテ中菊花壇アリ桁行十一間梁間二間此花壇例年ニ比スレハ一体小出來ノ心意アリト呼フモノアリ併シ何レモ上花ノ種類ノミニテ此レモ矢張リ保坂四郎右衛門ノ擔當ニテ例年ハ此花壇ヲ第一ニ賞賛スルメキヽ人多シト株數五十二株三十一種ニシテ玄ら山、乙女ノ袖、東錦等多ク見ヘ其名稱ハ左ノ如シ

圓山御花壇

位の山　玄ら山　乙女の袖　秋山原
羽衣　横雲　あまつ星　二見ヶ浦
黃金界　月下波　みちとせ　黃昏
嵯峨の奥　錦木　君か代　天か下
靜機山　蘆の友　去年の枝折　いさり火

一本モ損シ無之ト申テ宜敷當地ノ温室ニ入レテ夏中悉ク發芽致候

蘇鉄ハ運搬ノ便利至テ宜敷葉ヲ切去リドシドシト横詰ニスヘシ

百合モ多年ノ經驗ニテ粘土ニテ團子ノ如ク丸ルメ水氣ノ過キサル樣致候テ少シモ心配無之此モ至テ便利ナリ

此度携帶百合ノ内ニテハ紅筋幷白黃ト申ス百合當地ニテ初見ナリトテ至テ評判宜敷共進會ニテ百合蒐集ニテ第一等賞ヲ得候

日本盆栽ノ内「チヤボヒバ」ハ可ナリ珍奇ナリトテ好事家ヘ賣口宜敷候

昨日ヨリ花物共進會開設アリ菊花モ頗ル美麗ノ蒐集アリ當地ニテハ矢張温室ニテ仕立ル事ニ候

百合中ニテ莫大ニ賣捌クモノハ山百合ニテ當地ニテハ年々腐敗スルヿニテ凡千個ノ内七百個ハ消失スルヿ園藝家ノ實說ニ御座候卸中間賣ハ凡百個ニ付四十法ヨリ五十法迄ニ御座候

日本盆栽「チヤボヒバ」ノ如キ類似ナキ品ハ好事家ノ需ニヨリ可ナリ莫大ノ代價ヲ出スモノ御座候



国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50　ガラス使用

飯島秋三郎へ精々御奬勵願上候

明治二十二年十月十八日　　徳田佐一郎

吉田進殿

## ○日本にある植物

日本にある植物にして外國にて評判の出たる者は左の如し

コリンゴ　薔薇科

此は「フォン、シーボルド」氏日本より歐洲に齎來りたるものにして枝振りと云ひ花と云ひ殊に見事にして我國にては珍らしきものなり云々

クサシモツケ　薔薇科

此は日本の植物にして過般「ガードナース、クロニクル」には珍らしき植物として記載ありたれ共米國には年久しき前より知れ渡りおるものなり云々（以上「ガーデン、エンド、フオレスト」（本會雜誌第八號會紀事欄内參照本）に據る）

ノリノキ　虎耳草科

デヨールヂユ、ブーシエー氏なるもの今回の巴理万國博覽會に出品ありたるものにして益々繁殖すへし云々

ホトトギス　百合科

トケイサウ　西番蓮科

此は我國（英國を云ふ）の南部には普通にあるものなれ共其花の美麗なる其發生の優雅なる野天植にて墻塀抔を纏はしむるには最も妙なり云々

タウギバウシ　百合科

ギバウシのうちにて上等に位するものなり云々

スイカヅラ　忍冬科

此は他のカヅラとは發生と云ひ花と云ひ大に異なりて妙なれは庭園には必す植附け置くへし云々（以上「ガードニング、イラストレーテッド」に據る）

以上列擧し來るものは本文中にもある如く外國に於て我國植物の嗜好は如何用法は如何聲價は如何某國に於て某植物の狀況は云々なりとのをを極めて簡短に摘載したるに過きすして其中ヒローは過般伊太利國より買入度代價を報知せよとの旨申來り又第八號本會紀事中にもある如く外國にて我國の植物買入れを欲するものもある次第なれはなるへく速かに且つ多く我國植物の外國へ輸出ある樣希望する所なり（編緝上の注意）





此は誠に美事なる日本の植物にして野天植にては寒の爲め損することと間々これあれは温室仕立にするも可なり（佛國の氣候にて云ふなり）云々

キブヂギク　毛茛科

此は秋庭園の植込には最も妙なり云々

ダイコン

此は佛國種子植物商ウビルモラン、アンドリユー會社より今回の巴理万國博覽會に出品したるものにして日本人のダイコンと稱へ日本にて一般に作くるものなれ共我國（佛國を云ふ）に於ては今迄意慢に附したり我國のダイコンに比ふれは根太くして柔かなり云々（以上「ルビユー、オルチエール」に據る）

ヤマブキ　薔薇科

此とボケとは北向きにてもよく花咲くものなれは都合好きものなり云々

ヨレハユリ　百合科

ユリのうちにて切り花にして花瓶に挿むには最上等なり云々

ビロウ　棕櫚科

小き鉢に植置きて室内の粧飾に用ゆること妙なり云々

## ○條樹法

曩きに本會雜誌第七號開卷に於て日本の盆栽に付き記載せり今又「ルッビユー、オルチコール」に「ウバロー」氏の佛國國立園藝會雜誌に記載したる說の大要なりとあるを轉載せん「ウバロー」氏の說は左の如し

第一　幹枝共人工にて或は蛇行の如く或は螺線の如く右往左往に矯回せらるれは此れ少なくも其全長の三分の一を減少するものなり

第二　枝も幹も少しにても大なるときは直ちに枝は芽を摘み幹は下部を截斷して止むをなし左れは幹は肥大にして侏小なるものを成し此れより枝柯發生し其枝柯は多少萎小のものとなるなり

第三　此等の植物は直根を着けさるものなり

第四　右直根に代ふへき根は地より上に生出すると極めて長きも其端のみ地中に侵入す左れは幹は恰も幾多の株にて支ふる如し

此原理は稍々眞に近きもの、如し然るときは恐らくは植物は其早弱なるときより鉢に植置きて根頸（コレー）より生する根發達し始



国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

むるときは直根を取去るなり次に程經て幹の尖端を取去り其傍側の枝に幾多の矯回を施し此枝を以て幹に代ふるなり然る後ち定めたる枝のみを引續き存する樣になすなり此等の枝とても幹の尖端と同樣取去り而して殘餘の枝も亦悉皆取去るなり此の如くにして逐次度々鉢變をなし終に地中には根の極端のみを存するに至るなり

此の如く手術を施すにも拘はらず植物は必ず大に發達するに至るへきなり然るときは其下部の傍側の枝を截切し復た前記の手術を施すなり左れは幾十年も存在する樹木には幾度も之を施すを殆んと明かなり

概言するに侏樹法の方法は直根を除去するを、根を露出せしむるか爲め食物に乏しきを、枝柯を矯回するを、度々截切を施すをにあるものゝ如し

## ○巴理万國博覽會褒賞授與式

巴理万國博覽會褒賞授與式は去る九月二十九日を以て之を施行せり今其内園藝に關するものを擧けん

| | | 大賞牌 | 金牌 | 銀牌 | 青銅牌 | 賞狀 | 各類毎總計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第九部（園藝部） | | | | | | | |
| 第七十八類 | 暖室及ひ園藝の器具 | 〃 | 八 | 四六 | 五六 | 五三 | 一六三 |
| 第七十九類 | 屋外植粧飾の花卉草木 | 五 | 一四 | 二一 | 二四 | 〃 | 六四 |
| 第八十類 | 菜園の植物 | 二 | 四 | 三 | 五 | 〃 | 一四 |
| 第八十一類 | 果實及ひ果樹類 | 四 | 八 | 一二 | 一七 | 〃 | 四一 |
| 第八十二類 | 森林種實及ひ苗木 | 一 | 四 | 七 | 八 | 一三 | 三三 |
| 第八十三類 | 暖室の植物 | 六 | 二〇 | 一七 | 一七 | 〃 | 六〇 |
| 集計 | | 一八 | 五八 | 一〇六 | 一二七 | 六六 | 三七五 |

我日本國の出品にては帝國大學植物園は金牌（日本植物蒐集）○東京笠原氏は金牌（粧飾の植物）銀牌（日本庭園）を得たり

## ○巴理万國園藝公議會紀事

万國園藝公議會は佛國國立園藝會の補助を以て組成し本年八月十九日、二十日、二十一日の三日間會議を開きたり第一回の會議に於て役員を選擧したるに名譽議長レオン、セー氏議長アルヂー氏副議長コント、ド、ケルショーウブ（白耳義國ガント）○エ、ド、レーゲル（露國彼得）○パーヂユシヤルトル（佛國巴理）○ピ子ール（白耳義國ガント）○アツシユ、ド、ウビルモレン（佛國巴理）○フ井ッシエル、ド、ワルドハイム（露國ウバルソビー）○サユー（佛國モンペリエー）○バルテー（佛國トロワー）○ヂヨリー（佛國巴理）幹事「ド、ボッシエル」（白耳義國アンウベール）○チユリック（墺國維也納）○リンデン（白耳義國佛悉律）○カール、ハンセン（丁抹國コーペンハーグ）○ボリユー（佛國シヨーモン）○オー、ブリユネル（白耳義國ガント）○マンテン（佛國巴理）○ブリユアン（佛國ボワチエー）の諸氏當選せり

開會の初めに際しド、ボッシエル氏は來る千八百九十年アン、ウベルス花卉倶樂部に於て同府に開設すへき植物上地誌博覽會の事項を陳說せり該會は本と通常の會とは異なりて大に有益なるものなれは佛國及ひ其他諸國の植物者園藝者に於て贊成あらんをを希望する旨を陳說せり

又公議會議事の第一問題なる「人造生殖法ヲ施スヘキ植物ノ類又ハ屬ノ間ニ人造生殖法ヲ施シ之ニヨリテ最初豫想ノ性質又ハ品位ヲ得ルモノナルヤ尤モ其植物ハ園藝上何レノ部類即チ蔬菜果樹又ハ粧飾樹木ノ花卉ニ關スルヤヲ區別セサルナリ」に付ては有益なる討論ありしと雖も終に終結するをなかりき其中困難の大なるものは蓋し類又は屬なる語の字義に付き見解の如何にありしド、ウビルモレン氏は麥の如きは能く最初豫定の形狀を得他の植物中にも此例ありし次第を陳へたり要するに此問題たる說を異にして容易に議決する能はさるものなれは次回の公議會議事目中に記載し置くへきものなりし

ウバルソゥビーの植物園長フ井ッシエル、ド、ワルドハイム氏は電氣作用の種藝に付きキエフに於て實驗したる事蹟を報道せり同氏の說に土壤をして電氣を發動せしめんには長さ六十五「サンチメートル」（凡我二尺一寸五分）幅四十「サンチメートル」（凡我一尺三寸二分）の金屬製の板を地中に挿入すへし又其金屬製の板とは或は亞鉛或は銅を用ひ距離三十「メートル」（凡我十三間半）を置き二個毎に金屬の線を以て連絡すへし然るときは電氣の結果は一倍乃至四倍若くは一倍乃至二倍或る蔬菜の產出力を增殖すと云ふ

次きに同氏の實驗の事蹟は培養植物の周圍に大氣の電氣を蓄積するをにて同氏は金屬製の支柱を用ひたるに其數一「エクタール」（凡我一町二十五步）に付き凡そ六十個なり此等の支柱は各々其頂部には電氣蓄積器を備へ該蓄積器は冠形をなし上に齒を配列し金屬製の線を以て之を集合するものなり右電氣蓄積法を穀物に施したるに其結果收穫に於て半はを增殖せり此れ畢竟電氣は地中物質の消散を全ふしたるに由るものなり又電氣を施したる植物は成熟も早く殆んと始終健全にして寄生菌類の害を受くるをなしと云ふ

又第二回の會議に於てはカンヌ（佛國地名）國立園藝會に托して共

筋に左の二件を出願せしめんとの旨を發議せり其第一件は鐵道會社に就き植物運送賃の輕減を請ふと其第二件は「ベルヌ」府ヲヒロクセラ條約は其全部共廢止するを此れなり但し葡萄及ひ其運送に係る條款は此限にあらす

「園藝ニ用ユル化學上ノ肥料ノ其使用法」の問題にては論説を送附したるものもありて討議を盡くしたるに其局化學上の肥料は用ひさるへからす然れ共之を用ひんには豫め肥料の如何を究めて徒勞に屬せしめさらんを必要なりと云ふにありし

「培養シタル植物ノ有害物驅除法」の問題は事の大に重要なるものにして議員等鋭意討議したるにも拘はらす別に新法を示すとなかりき惟鳥類は蟲類の最強敵なれは嚴に鳥類保護に係る法律を遵奉すへきなりと云ふにあり

議員の一人なるマダム、ヲ、バロンネス、ド、パヂエース氏（和蘭國の婦人）の陳説に和蘭國の「フローラリア」なるものは細民社會に園藝の嗜好及ひ窓戸、室内用花卉の作くり方に付き必要なる知識を擴張せしめんとを以て目的となす協會なり左れは學校の兒童貧困者又は病患者には種子植物を分配し又集會ありて其際出品品評を催し賞與は有益なる物件を附與すれは此れ又慈善をなすの一頁法なりと云ふ

附記す佛國國立園藝會に於ては本會議の議事報告を全文の儘刊行する由此に載するものは其大要に止まるのみ又右公議會の賛成者は万國博覽會の故を以て前數年に比すれは其員數多し（以上三件「ルウヒユー、オルチコール」に據る）

○エイザンユリに付て　過般本會に寄贈せられたる埃國勅立維也納府國立園藝會の機關たる「ウヰーヌル、イルストリルテ、ガルテン、ツアイツング」中有益なる事項少なからされは逐次轉載せんとするに方りエイザンユリに付き日本の事を記せるあり曰く「エイザンユリは七八月の頃維也納府に於て花十二乃至二十餘を着けて誠に美事なり當府にては早晩と晩咲きとの二種あり中略近頃亞米利加の雜誌にエイザンユリの寫眞畫を載せたるに其高さ二「メートル」三十「サンチメートル」凡我七尺六寸にして花百四十個を着けあり又千八百八十八年より八十九年に至る冬の間英國倫敦に於て四十一ケ所の競賣會に日本より輸入したるエイザンユリの根六十万個餘競賣せられたり此他輸入者に於て直ちに賣捌くもの亦限りなきをなれは以て日本に於てエイザンユリの種藝の實く盛なるを知



国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

ものにして議員等鋭意討議したるにも拘はらず別に新法を示すをなかりき惟鳥類は蟲類の最强敵なれは嚴に鳥類保護に係る法律を遵奉すへきなりと云ふにあり

議員の一人なるマダム、ラ、バロン子ス、ド、パヂエース氏(和蘭國の婦人)の陳説に和蘭國の「フローラリア」なるものは細民社會に園藝の嗜好及ひ窓戸、室内用花卉の作くり方に付き必要なる知識を擴張せしめんをを以て目的となす協會なり左れは學校の兒童貧困者又は病患者には種子植物を分配し又集會ありて其

記せるあり曰く「エイザンユリは七八月の頃維也納府に於て花十二乃至二十餘を着けて誠に美事なり當府にては早咲と晩咲きとの二種あり中略近頃亞米利加の雜誌にエイザンユリの寫眞畫を載せたるに其高さ二「メートル」三十「サンチメートル」(凡我七尺六寸)にして花百四十個を着けあり又千八百八十八年より八十九年に至る冬の間英國倫敦に於て四十一ヶ所の競賣に日本より輸入したるエイザンユリの根六十万個餘競賣せられたり此他輸入者に於て直ちに賣捌くもの亦限りなきをなれ

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

ひ知るへし」とありたり

○碧花の菊　此に圖を示すものは碧花の菊にして高さ三尺三寸又花の大さは圖の如くにして大給恒氏名つけて碧雲臺と稱するものにして至て珍奇のものなり今同氏に就き其由來を質問したるに大給氏明治三年信濃國南佐久郡臼田村某氏より碧花の菊を得たるに當時未た名稱なきを以て皮日休の香臺瞰碧雲てう句により碧雲臺と命名したるも程經て枯死せり其後此事を故水本成美氏に通したるに水本氏の說に「ヱゾギク類には碧色のもの有之も眞の菊には未た之を見すもしあらば珍奇のものなり」とのをにて信濃國より取寄せ苦ふして一莖一根を得之を水本氏に托し培養一方ならさりしも明治十七年水本氏死去せられ此菊も亦共に跡を絕てり因て本廿二年に至り更に之を求めたるに信濃國北佐久郡小諸町の桂川駒之助氏兼て培養の品を齎來り大給氏に贈呈せしかは大給氏より更に宮內省に献上したるものなり

## ○齋藤翁一白畫譜略傳

會員　久永章武

植物ニ熱心ナル花友齋藤翁（現住小石川區大塚町二十八番地舊組屋敷）ハ天保ヨリ文久年間ハ尤奇草珍樹ヲ採集シ就中白花ノモノヲ深ク愛セラレ艸本植物白花一百種ヲ集メ自園ヲ一白圃ト稱シ列栽シ大ニ同好者ノ高評ヲ博シタリト聞ク翁ハ七十九歲ノ高齡ナレト尙ホ壯健ニシテ培養ニ力ヲ盡シ殊ニ內國種ノ山草ノ如キハ究テ保育シ山小菜（白花ノモノ）ナゾハ文政初年飯室氏ノ採藥ニ係ル珍草ナルカ此種今ニ繼續シヲレリト余モ一株ヲ惠マレタリ亦百白花ヲ集ムル際ノ寫生アリ名ケテ一白畫譜ト云フ斯ル畫譜ヲ獨リ見過コスモ遺憾ナレハ翁ノ許ヲ得テ其品名ノミヲ左ニ報告ス

一白畫譜目錄

獐牙細辛（ユキワリサウ）　弘化ノ年佐橋氏實生
酸漿草一種（エイザンカタバミ）
箭頭草（スモウトリサウ）
菟葵（イチリンサウ）
菫菜（スミレ）
雪蓮（フクジユサウ）
毛莨一種（コキンバイ）　慶應年中北豐島郡志村產ヲ得
堅香子（カタクリ）　大宮ノ產

董々菜一種　自圃ノ産
蒲公英　津輕ノ産
通泉草
杜衡

カメバサウ
夏枯草
羊耳禿
淫羊藿
六月菊
續斷
旌節花

ギンラン
剪刀股
胡蝶花一種

天南星　野火留ノ産
小蒜
蘭蓀

狼尾艸
威靈仙
苦參
川百合

大半夏
油點草　安政二年房州清澄山採藥
剪秋羅一種　實生

濱沙參
女萎一種
鉄脚威靈仙一種

巳上百品　但シ採集毎ニ綴込シモノ故種屬ノ區別ナキトノ斷ナレハ玆ニ之ヲ記シ置ク

獐牙細辛　獐牙細辛ハ雪割草、スハマサウ、サンカクサウノ和名アリ春月盆梅ノ根占ニ植テ雅致アル小草ナリ花ニ純白、淡紅、碧色アリ愛スヘシ然レ𪜈開花ノ頃古葉ヲ存在セス故ニ雅ヲ失セリ葉ヲ保タシムルニハ夏秋間陰地ニ置秋末ヨリ日光ヲ與ヘハ花開ノ時葉蒼々トシテ一層美妙ナリ亦園中岩石間ヘ植ヲカハ實撒布シ新種ヲ生ス肥料ハ小鳥糞小量ヲ注クヘシ此レ余カ實驗スル處ナリ　因ニ記ス普通純白花ト稱スルモノ薑淡紅色ナリ往年某氏愛スル白花雪割草ハ薑白ク莉純紅奇品ナリ其實生ヨリ生スルモノハ普通ノ品トナレリト云フ

地楡
瞿麥
綬草
風輪菜

クサガク
劉寄奴草

草烏頭

スゲユリ

スイセンノウ
牛膝

## ○統計

### ○輸出入高

明治二十二年十月內國產輸出高

山茱萸　貳百八拾五圓貳拾七錢
吳茱萸　七百八拾貳圓
牡丹皮　千六百七拾四圓〇五錢
栗　百四拾七圓貳拾錢
薑　七百貳拾八圓拾六錢
銀杏　六百〇七圓九拾貳錢
竹材　六千七百六拾九圓六拾壹錢
百合根　八千〇三拾三圓八拾錢
草木苗類　千六百八拾三圓七拾錢

同外國產輸入高

生菓　千四百拾七圓六拾八錢





延胡索　越中富山ノ産
白頭翁
三枝九葉艸
毛茛

梅咲イカリサウ
糝斗菜
大文字草
山芎藭
他偷草

ハリサウ
紫羅傘

サクラサウ
白薇

丁子草
黄花菜
白芨

糝斗菜一種
除州夏枯草

タツナミサウ
花シノブ
小倉剪春羅

八丈作百合　八丈ノ産
麥門冬
蜀葵

イワナ
丹參

カモノハシ　越中富山産
水蔓青
鉄色箭
闘牛兒苗一種

ガンピ
沙參一種　越中富山
燕尾仙翁
闘牛兒苗一種
千屈菜

武者龍膽
半邊蓮
白黄百合

ヤツシロ桔梗
薯蕷
天竺牡丹　天保年間渡ル松平菖翁邸實生
山小菜　文政年中飯室庄左衛門採藥
芒

沙參
鼠尾艸
白蒿
歪頭菜

ナツユキ
剪春羅
火灰毋草
黄芩
射干



国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

生菜乾菜　拾圓七拾錢
大黃　千六百〇八圓七拾錢
種子類　拾五圓六拾錢
草木苗類　三百七拾七圓三拾四錢

（大藏省關稅局編纂の外國貿易月表に據る）

## Exportation of Japanese products during October 1889.

Declared values

| | yen |
|---|---|
| Cornel or Sanshuyu | 285.270 |
| Cubeba Officinalis or Goshuyu | 782.000 |
| Peony Bark | 1,674.050 |
| Chestnut | 147.200 |
| Ginger | 728.160 |
| Ginnang | 607.920 |
| Bamboo | 6,709.610 |
| Lily bulbs | 8,033.800 |
| Plants, trees & Shrubs, | |
| Unenumerated | 1,683.700 |

## Importation of foreign products.

| | |
|---|---|
| Fruits, fresh | 1,417.680 |
| Vegetables, green or dry | 10.700 |
| Rhubarb root | 1,608.700 |
| Seeds (Except Barly Beans, Peas & Pulse, oats, rice, sesame, Wheat) | 15.600 |
| Plants, trees & Shrubs | 377.340 |

(Monthly return of the Foreign trade of the Empire of Japan published by the Bureau of Customs)

## ○說林

### ○年中園事（第八號の續）

曲辰生



一月

梅

本月初旬ニ用ユル分ハ十二月中旬ニ咲セ室ヘ入レ以來順々ニ咲セ室ヘ入レシモノナリ又此月中旬ヨリ日溜リニ置クトキハ冬至梅、香篆梅ノ種類ハ咲セ室ヘ入レサルモノモ花開クモノナリ既ニ觀賞セシモノハ花謝スル後其儘日當リ好キ地盤ヘ假植（カタ）シ置クヘシ此際葉根トモ剪取ルヘカラス咲セ室ノ手當其他ハ十二月ノ部ニ委シ

松（マツ）○杜松（トシヤウ）○羅漢柏（ヒバ）

年中觀賞スルニ足ルモノナレハ此月モ勿論觀賞スルモノナレトモ宜キ場所ニ注意シ暖キ室內等ヘ永ク留メ置クトキハ甚タ害トナルヘシ此月新綠（ミドリ）ノ餘リ太リ過キタル分ハ摘ミ取レハ摘口ニ創ヲ殘サス五月中新綠ヲ取ルヨリモ益アルモノナリ但新綠ノ太キモ丸クシテ椎形ノ分ハ全ク伸ヒヌモノニテ却テ細長キ形ノ分カ伸ルモノナレハ之ヲ摘取ルヘシ其詳細ハ五月分及八月分年中園事ニ對照スヘシ

南天燭（ナンテン）

此月觀賞スルモノハ通常南天燭ノ紅白實付モノニシテ接分ケ植込ミトモ紅々白々實ヲ結ヒ分ケタル分ハ觀賞スヘキモノナリ

椶櫚竹（シユロチク）○泰山竹（タイザンチク）○大明竹（タイミンチク）

年中觀賞ニ足ルモノナレ𪜈此種ハ松トハ反對ニシテ唐椶櫚ノ外ハ寒ヲ忌ムモノナレハ温暖ナル室內ニ置クニ適ス併テ年中觀賞ニ足ル品ハ成ルヘク極寒極暑ニハイタハリ澆水抔ニ注意スヘシ

蘭（ラン）○猿莚（タニワタリ）

蘭ハ甚タ嚴寒ヲ嫌フモノ故温暖ナル場所ニ限リ觀賞スヘシ而シテ特リ蘭ニ限ルニ非サレトモ隨テ暖氣ヲ與フレハ隨テ澆水ヲ要スル筈ナリ又相應ニ空氣ノ交代モ必要ノモノナレハ片時モ注意シテ惰ルヘカラス此月開花スル蘭ハ寒蘭、寒鳳蘭、陶氏寒蘭等ノ類ナリ又中旬ヨリ氣節變リノ蟲發生スルヿアリ宜ク各月蘭ノ項ヲ參照シテ驅除惰ルヘカラス

佛手柑○レモン

古實（今月ヨリ古實トス）付キアル分ヲ觀賞スルモノナリ此月中旬頃ヨリ室內ニ於テ害蟲發生スルヿアリ宜シク注意シテ驅除スヘシ併此季ノ害蟲ハ勢力甚タ微弱ナルモノニシテ其形赤キ蜘蛛（クモ）ノ



国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

子ノ如ク且ツ甚タ小ナルモノナレハ温暖ナル快晴ノ日ニ室外ヘ取出シ單冷水ニテ筆ニテ洗ヒ取レハ撲滅スルモノナリ又今年觀賞用ノ實成ヲ仕立ルニ分ハ快晴ノ日ハ必ス毎日午前十時頃ヨリ室ノ外ヘ取出シ午後三時頃ニ取込ムヘシ又時々葉ノ表面ノ塵芥ヲ漱ヰ布ヲ以テ拭ヒ去ルヿ惰ルヘカラス是ノ如クセサルトキハ實ヲ結フヿ少ナク偶々結果スルヿアルモ特有ノ形狀ト成熟トヲ見ル能ハス

金橘（キンカン）○橙○蜜柑

實成リテ此節觀賞ス且ツ甚タ温暖ナル場所ヨリハ寒暖晝夜懸隔セサル場所ヲ好ムニ故ニ既ニ岡室又ハ穴室ヘ入レ置クモノナレハ宜ク澆水ノ凍結セサル限リハ清冷ナル場所ニ置ク方今年新實ノ付方好シ

雪柳

寒氣ヲ冐シ此月中旬ヨリ盛リニ觀賞ニ堪ユ併テ僅ニ開花前四五日程温室又ハ暖セ室ヘ入レハ花葉トモ並ニ出テ最モ愛ヲシキモノナリ餘ハ早咲梅咲セ後ノ手當ニ倣フヘシ

平地木（ヤブカウジ）

此種ハ前月ニ引續キ小盆栽又ハ根合（ネアハセ）ニ用ユ此種ハ寒氣ヲ恐レス故ニ年中日光ノ直射セサル場所ニ置キ葉ノ上ヨリ水ヲ澆カサル方葉實トモ安全ナリ

山茶（ヤマヂャ）○瑞香（ズイカウ）

此月觀賞スルモノハ大神樂、白玉其他早種類ナリ是等ハ初冬ヨリ室ヘ入レ置クトモ此節僅ニ温暖室ヘ入レ置クトキハ一時ニ多數開花シ觀賞ニ足ルモノナリ爾後清冷ナル場所ヘ貯ヘ置クトキハ花永ク持ツモノナリ

ヒメコブシ

此月初旬開花スルモノハ十二月中旬咲セ室ヘ入レシモノナリ自後二番三番ト凡日數四五日隔テヽ室ヘ入レ置クトキハ堪ヘス觀賞スルヿヲ得委シクハ十二月分ニ記載アリ

献歲菊（フクジュサウ）

此月中旬ヨリ成ルヘク寒冷ナル所ニ置キ觀賞前三四日ニ植込ミ温室ヘ入レ置クトキハ自在ニ開花ヲ促シ得ルモノナリ委シクハ前月分ヲ參照スヘシ

木瓜（ボケ）

此實付モ甚タ雅致アルモノナレハ豫メ實成リテ捥ユル心組アルヘシ是ハ早咲ヲ促スヿナカレ其他ノ分ハ梅ヒメコブシト併セテ早咲スルモノナリ紅、黃、白等色モノハ取扱ハ前月分唐梅ノ取扱ニ倣フヘシ又實成リ注意ハ三月分ニ委シク記ク

金纓梅（キンヨウバイ）○臘梅（ラフバイ）一種眞臘梅アリ

此種ハ去月ヨリ蕾肥大ニシテ正ニ開花ニ臨ミ居ルモ梅、木瓜其他ノ如ク早咲キヲ促スモ効ナシ本月下旬ニ至レハ自然ニ開放シ稍半開ニ臨ムモノヲ僅ニ咲室ヘ入ルヘシ此二種共ニ花永ク持テ頗ル雅致アルモノ故ニ清冷ナル場所ニ於テ觀賞スヘシ金纓梅ハ强テ古葉ヲ摘取ルヘカラス大ニ雅致ヲ損スルモノナリ

草砂根（センリャウ）○珠珊瑚（シュサンゴ）○山茶黃（サンシュユ）

二種トモ結果アルモノハ觀賞ス岡室穴室ニアルモノナレハ宜ク清冷ナル場所ニ於テ觀賞スヘシ

蘇鉄

此頃温暖ナル場所ニ置キ宜ク澆水ヲ節スヘシ若シ澆水凍結スルトキハ根ニ腐ヲ生ス又甚タ温暖ニ過ルヨリ晝夜平等ノ温室又ハ岡室ニ適ス

黃梅（ワウバイ）

此種ヒメコブシニ次テ咲室ヘ入ル取扱モ亦異ナルヿナシ但シ節々ヨリ根ヲ出スモノナレハ咲セ室ヘ入ル前ニ爪端ニテ摘ミ取レハ容易ニ落チ枝梢柔カニシテ見事ナリ

連翹（レンギャウ）

此種寒ヲ冐シテ開花スルモノニテ扱方ハ黃梅ト異ナルヿナシ併ナカヲ餘リ咲室ヘ入ルヘシ

桃

本月中旬ヨリ咲室ヘ入ル桃ハ花出惡キモノニテ枝端ノ蕾ノミ肥太トナル故ニ之ヲ豫防スルニ横樣ニシテ入レ置ケハ少シハ効アルカ如シ二月下旬ニ至リ始メテ開花スルモノナリ

海棠○櫻

海棠ニ推朱海棠、海棠、薩摩海棠、三ツ葉海棠等ノ種類アリ本月初旬第一ニ推朱海棠ヲ咲室ヘ入ルヘシ而シテ當季ハ開花ノ兆候ハ未タ少シモ見ヘサルモ凡ソ日數五十日程ヲ經テ美事ニ開花スルモノナリ故ニ前ノ金纓梅等ニ比スレハ花出甚タ好キモノニテ榕生（キ）咲ニハ二ケ月モ早咲シ自後各種引續キテ咲セ室ヘ入ルヿ紅色ヲ出スニハ早咲紅梅ニ倣ヒ取扱フヘシ

水仙

性寒ヲ冐シテ蕾ヲ發スルモノナレトモ葉ハ霜ニ弱シ之カ早咲





国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

ヲ促ス爲メニ永ク室内ヘ入レ置クトキハ葉ノミ徒ニ長シテ盆栽ニ適セス宜ク花ト葉トノ平均ヲ量ルヘシ其仕方ハ獻歲菊ニ似タリ宜ク仝項ヲ參照シテ此ノ不時ナル珍花ヲ養生スヘシ

薔薇（バラ）

此期日溜リニアルモノハ中庸ト葉ノ壯健ナルモノヲ温室其他ノ室内ニ置キ開花セシムヘシ又接木セントスルニハ此頃モ接モ注意スヘシ

木シテヨシ

## ○注意

生ノ毎月掲クル園事ハ幸ニ常ニ諸君ノ注意ヲ催スニモ拘ハラス殊更爰ニ注意ト掲クル譯ハ外テハ御座リマセンカ凡ソ植物ハ極暑極寒カ一番注意ヲ要スルニテ一月ト申セハ舊ノ御正月ノ樣ノ心持スルモノハ植木屋ノ庭ト餅屋ノ店計リニテ其外ハ大概節期ノ仝最中ニシテ五日カ寒ノ大入リナレハ舊ノ寒梅ハ寒前梅トテモ改名スル譯ナリ左リナカラ年中第一ノ嚴寒トテモ注意一トツニテ寒イトイフタラ火闇（コタツ）ノ透風ニモ風邪ヲヒキ又寒クナイトイフタラ凍（コホリスベリ）渡リモ汗ノ出ル位ナレハ何ニ限ラス先ヲサヘ取リテユケハ過チナキモノ故ニ爰ニ重複ヲ厭ハス要略ノ注意ヲ掲クルナリ左ノ如シ

室内外澆水

此月嚴寒ニ際スルヲ以テ澆水ハ室ノ内外ヲ問ハス快晴ノ日ヲ限リ（午前十時ニ始メ十二時ニ終ル）輕量ニ施スヘシ若シ澆水過ルトキハ酷霜ノ爲メ凍起（イテ）上ケ植物ヲ害スルモノナリ又豫テ水鉢水盤ノ類ハ時々見廻リ雨水等ノ滯溜セサル樣ニスヘシ是ハ凍冰ノ爲メ器物ヲ破損スルモノナレハナリ水瓶洗手鉢等最モ注意スヘシ

室内植物

諸室内ノ植物ハ古葉ヲ取リ殊ニ蘭ノ蟲驅リ入表蘭ノ結立結替金銀合歡等ヲ切リ込ムヘシ又室内ヘ此頃ヨリ木製ノ箱又ハ便宜ノ植込鉢類ヲ設ケ置キ款冬花（フキノトウ、フクジントウノ花モ、タンポ）、筆頭菜、蓬、蒲公英等ヲ植込ミ室内ニ裝飾シ置キ寒中ニ摘草スル等又一入變リテ面白キモノナリ

唐室岡室ノ澆水ニ用ユル分ハ豫テ室内ニ餘地アラハ取込ミ置クヘシ（温室モ仝シ）殊ニ咲セ室ノ吹水ハ前月分ニ掲ケシ火器ノ上ニ備ヘアル土瓶ノ微温湯ヲ用ユヘシ但指ヲ入レテ温キヲ覺ヘアル樣ナラハ水ヲ混シ冷タク（アタヽカ）モ温クモナイカヨシ

室ノ蓋ハ此頃雨天ニハ取ルヘカラス快晴ニハ必ス午前九時ニ



障子又ハ硝子ノ外蓋ヲ開キ午後二時ニ更ニ外蓋ヒヲ蓋フヘシ

## 寒土○寒肥

寒土ハ此節成ルヘク年中寒濕ナル場所ノ饒土（コヘツチ）ヲ撰ミ塵芥及ヒ瓦礫ヲ篩（篩ハ竹製五分目）ヒ去リ篩土一坪ニ付人糞十五荷（一荷ハ三斗入）程ノモノヲ時々ニ浸入セシメ之ヲ嚴寒ニ暴乾（サラ）シ便宜ノ場所ヘ積置キテ雨覆ヒヲ設ケ置クヘシ之ヲ寒土ト稱ヘ樹木ノ仕立物ニ用ユ

又草花ノ類ハ籌寄土（キヨセツチ）ト稱ヘ年中庭園ヲ掃除スルトキ塵芥ニ混シ籌集セシ土ヲ集メ置キ之ヲ前ノ如キ手續キニ拵ヘシモノヲ用ユルヲ好シトス

寒肥ハ此節業務ノ閑暇ナルヲ以テ諸樹木ニ人糞ヲ施スノ習慣ナレトモ最モ好キハ寒三十日前後三十日内ニ施ス方利益アリ何レモ樹木ノ根ノ損セサル樣ニ施スヘシ殊ニ果樹ハ發芽前即チ二月迄ニ二四度施スヘシ

## 培養○移植

櫻草ハ此月中旬ヨリ移植（籌寄土ヲ用ユ）シテ成ルヘク芽ノ椎子（シイノミ）形ノ分ヲ鉢上ケトナシ猶セタル分ハ地盤ヘ植テ更ニ培養スルヿヨシ





苗床

此月中旬ヨリ茄子、蕃椒（トウガラシ）、南瓜等並出シ（極早出シハ一般ニ通シカタシ故ニ爰ニ中通リノ仕方ヲ掲ク）苗ノ苗床ヲ拵ユヘシ此ノ拵方ハ先ツ北西ニ樹木又ハ建家アル日溜リ場ヲ見立テ凡ソ九尺ニ長二間ノ床ヲ設クルト假定シテ之ヲ地盤ニ計畫シ此又畫ヲ去ル各六尺ヘ高サ二間位ノ柱ヲ西北西ノ三方ニ掘立テ之ニ横木ヲ添ヘ葭簀ヲ張ルヘシ右終リテ前ノ計畫セシ苗床太サヨリ周圍凡ソ一尺餘太ク深サ三尺ノ穴ヲ掘リ之ニ藁芥、落葉、枯草等一面ニ盛リ込ミ凡ソ二尺程ニ蹈込ミ更ニ堆積肥ノ能ク腐熟セシモノ凡一尺餘ヲ配置シ其上部ヨリ人糞凡ソ二三荷ヲ澆キ直ニ肥ノ饒細土一二寸ヲ蔽ヒ置クヘシ而シテ南ノ方ハ一尺他ノ三方ハ一尺五六寸ノ高サニ板ヲ以テ圍枠（枠ハ長二間幅九尺ノ分）ヲ設ク先ツ當月ハ下タ拵ニテ終ルヘシ（未完）

## ○西洋園事歷（第八號の續き）

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

一月

果園及苗樹園の部

一　天氣都合好く且つ土壤柔かなるときは引續き果樹及び粧飾樹木（但し松柏科植物は此限にあらず）の植附けをなしてよし○其通則は濕潤の地へは乾燥の地よりも淺く植附けるがよし

一　前年の秋着手したる耕耡は引續き之をなすがよし

一　耕耡をなす際には注意して古るき根朽ちたる「ボク」を取去るがよし

一　年を經たる果樹の皮は蘚苔地衣（コケ　ライケン）の生じおるものを取去りたる後ち石灰水又は稀薄（ウスキ）の石鹸水（シャボンスイ）にて洗ふがよし

一　霜の降らざるときは早咲果樹類殊に勢あしき苹果（オホリンゴ）梨及び一般に果樹類の翦枝に着手するがよし

一　桃の外は核果樹も翦枝をなすがよし

一　勢よき梨の翦枝は三月より四月迄の間に延期（ノバス）がよし

一　壇塀作くり果樹の格子は手入れをなし洗ふがよし

一　前年の秋實蒔をなしたる苗樹は事宜によりては防霜（シモヨケ）をなすがよし



一　引抜きても直ちに移植の出來ぬ樹木は長凹畦に植置きて根を蔽ふがよし左もなくば凍ることあり

一　擺木（サシキ）にて繁殖の出來る果樹又は粧飾樹木は其枝柯を切るがよし又切り枝には芽を多くも三個乃至五個着け置きて種類別に分ち置くがよし○然る後ち此等は取纏めて小き束となし植附けの時即ち二三月迄乾燥にて風抔のあたりなき地面に擺込み置くがよし

一　果樹即ち桃、葡萄、櫻桃（ミザクラ）等の壇塀には玻璃の筵板を備へ置きて早種の實を得るがよし

一　果樹の作くりある壇塀の杭格子鉄線を見廻りて丈夫になし置くがよし

一　天氣のあしき日には格子の條鉄藪覆を作くり又は柳の皮を剝ぎて時を徒費（ムダニ）するときなき樣なすべし

菜園の部

一　南向きの畑又は微温床又は木匡の下に早種の「エンドウ」「インゲンマメ」「ソラマメ」「チシャ」「ダイコン」「ニラ子ギ」「タマ子ギ」等蒔附けの爲め地面を拵へ置くがよし○其時は重勿にて耕すがよし尤も地面のあまり濕氣なき場合に限る

一　菜園に肥料を施すがよし

一　重勿にて前年拵へ置きたる石灰其他礦物質又は植物質の肥料を埋め込むがよし

一　床等を作くりに定めある肥料は積み累ぬるがよし

一　三四月の頃「オランダキジヤカクシ」の根を植附け用の爲め凹畦を設け置くがよし

一　温床又は其他にて「オランダキジヤカクシ」の早作くりをなす樣注意するがよし

一　天氣のあしき日には藪覆を作くり又器具古るき木匡類筵板は手入れをするがよし

一　前年十一月に南向きの畑に移植し置きたる「チシャ」類の手當をするがよし○「レーチユー、ドラ、パッション」（「チシャ」のうち）其他截切して用ゆる種類は温床に蒔附けるがよし

一　以前に蒔附け置きたる「レーチユー、クレープ」「レーチユー、ゴット」（共に「チシャ」のうち）は微温床の上木匡又は力子の下に移植するがよし

一　當月月末頃南向きにて野天又は壇塀の下に「ソラマメ」「タマ子ギ」の蒔附けをなすがよし

一　「クールト、アーチーウブ」を稱ふる「ニンジン」も亦微温床に蒔附けをなすがよし

一　此等は種子の芽出し前には少し水を灌ぎ芽出したらば充分に水を灌ぐがよし

一　雨天のときは「テウセンアザミ」の苗の蔽は取り去るがよし左もなくも腐敗するものなり又霜害の恐れあれば木の葉又は藪を取納むべからず寒の強きとき復敷くがよし

一　前月同樣「クレッソン、アレノワー」夏「ウズヂシャ」「オランダミツバ」の蒔附けをなしてよし

一　「オランダゼリ」「スカンポ」「エストラゴン」（菊科の一小草にして調味用のもの）引抜きて木匡の下に厚く移植するがよし

一　當月月末には月初に木匡又は力子の下に移植をなしたる「チシャ」類を賣り出してよし

一　冬季前に束ね置きたる「テウセンアザミ」又前年の秋收穫して長凹畦に貯へ置きたる「ハナハボタン」又一週毎に温床に蒔附けをなす「ダイコン」又早作くりの「エンドウ」「インゲンマメ」を賣出してよし





国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

一「エンドウ」「インゲンマメ」は更に温床に蒔附けるがよし左すれば生菜として食用となすなり

一前年秋木匠に蒔附けをなしたる「ハナハボタン」の苗には成るべく度々風をあてるがよし

一苗床に「ハナハボタン」「シユー、ヂヨルク」(「ハボタン」のうち)其他早種の「ハボタン」の蒔附けをなして寒氣の爲め損したるもの、代りとなすがよし

一成るべくは鉢のうちにて「ムロン、カンタルー」(「マクワウリ」のうち)「キウリ」「アカナス」「ナス」を温床に蒔くがよし

一當月末頃「マルジヨレン」「コミース、ダミヤン」抔早種「ジャガタライモ」の植附けをなすがよし

一鳳梨温室内には小卓を設けて鉢作くりにて二月より野天作くりとなすべき迄の間實を生ずる「クサイチゴ」を置くがよし○此類最もよきものは「コント、ド、バリー」「ゴリアト」「プレンセス、ロワイヤル」「ク井ン、シードリング」等の諸種なり

一蔬菜温室内「ハナハボタン」「アザミ」「オランダミツバ」「ウマヂシヤ」等は度々見巡りて腐敗したるものは殘らず取去るがよし○「アカダイコン」「ムザナデシコ」「ニンジン」等根菜植物も亦同樣のを

一耕耡の仕事を終るがよし

一粘土の少しく多きに過ぎる地面は積土(ピロン)となして膨鬆(バサク)にするがよし(未完)

## ○歐洲庭園沿革略說(第八號の續き)

### 英國之部

### 第三節

皇帝「ヂヨールヂユ」に至り「ケンシングトン」の庭園造營に着手したるも帝の御宇間竣功せすして皇帝「アンナ」に至りて英國の園藝史上有名なる「ルードン」「ワヰス」の二氏をして之が圖を製せしめ終に成竣を告けたり右兩氏の業たる實に卓拔にして英國文學者「アヂッソン」氏(千七百七十二年ー千七百十九年)之を叙事体の詩に讃へて大に稱贊したるも亦誣言にあらさるなり尋て「ウヰンドソル」の宮殿も釐革する所ありて從前の平地園に代ふるに「シバ」を敷きたる露臺を以てせり又「ワヰス」氏は三年間にして「グレンハイム」の庭園を造營せり又「エッセックス」伯爵所領内の「ワンス井ッド」及び「ヘヤフオルドシヤイル」内の「エッヂエール」は右「ルードン」最後の工事なり

二氏死し「ブリッヂユマン」なるもの尋て起れり此に於て庭園の嗜好益々虛を去り眞に就き繡箔樣其他驕奢の粧飾は衰頽し彫刻したる樹木も全く跡を絶つに至れり樹木を以て蔽ひたる往路はまた全く廢去せられさりしと雖も其上部は自由に生長せしむるに至れり

以上陳ふる所の千六百三十年より千七百十三年に至るの間英國に於て壯美なる庭園實に少なからすして其中今日に至るも猶ほ最初の觀を存するものあり「ブレンハイム」「カッスル、ホワード」「クランブールン」「バスレー、パーク」「エッヂエル、アルトルプ」「ニユー、パーク」「ボーデン」「ハックウード」「レスト」の如き此れなり

又「ケンシングトン」の庭園は皇后「カロリン」引續き工事を營めり又「ハイド、パーク」中幾多の小水溜を合して「セルペンタイン」と稱する泉地を設けたり此頃より造庭の法一軸を出し規畫直正を忌避するに至れり已に「ルールド、パトルスト」は「ゴルンブルーク」の近傍にある「リスキンス」に於ける泉池を改造せり此れより先き査理斯第一世帝附の讀經僧「クリストーフ、レン」氏も亦泉流をして蛇行せしめ以て其延長を計れり又「ケンシングトン」の庭園は最初五十「エークル」なりしも皇后「カロリン」「ハイド、パーク」中の三百「エークル」を圍込み「ブリッヂユマン」氏に之が工事を委托せり

其後幾くならすして千七百二十八年に至り「ヂユーク、オフ、チヤンドス」其所領地を「ドクトル、ブラックウエル」氏に委托したるも同氏は「ル、ブロン」氏(佛國人)の造園の原理及び實業と題する書中の方法を模寫したるに過きさるなり終に千七百三十年に至り彼の有名なる「ケント」氏起り「カウント、オフ、ダンス、ボロー」(伯爵)の聘に應じ「ユートランドシヤイア」内「ヱクストン」宮城を造營せり

以上節を追ふて陳ふる所は此れ實に英國の上世より近代に至るの庭園略史なり又國別庭園の略史も此に於て終結したるものとなし之を第一篇となし此れより第二篇に於ては今代歐洲庭園に付き陳ふる所あらんとす但し之を陳說するに一方に於ては沿革を追ひ一方に於ては稍々詳細に其實況を陳へんとす(未完)





国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

# ○佛國ウベルサイユ國立園藝學校紀事（第八號ノ續キ）

## 第一　庭園ノ一

「ウベルサイユ」園藝學校ハ殆ント十万「メートル」ノ表面即チ十「エクタール」ニシテ（凡我三万七百五十坪）ヲ占メ其中一「エクタール」三十六「アール」（凡我四千〇八十坪）ハ蔬菜一「エクタール」五十九「アール」（凡我四千七百七十坪）ハ墻塀作クリノ果樹、三十五「アール」二十八「サンチアール」（凡我千百三十四坪）ハ植物學練習所、二十九「アール」五十四「サンチアール」（凡我千〇三十二坪）ハ温室、三十一「アール」（凡我九百三十坪）ハ模範育種場ナリ殘餘ノ部分ハ野天植粧飾木本類植物、果樹練習所（二重墻塀作クリノ果樹）薔薇類、宿根植物及ヒ其他植物障匡、通路、露臺、内庭等ナリ此レ皆學生ノ就テ練習實驗スル所ナリ

本校ノ入口ハ「リユー、デユ、ポタチエー」（町名）四番地ノ建物ヨリシ而シテ内部ノ内庭ノ入リ口ニハ屋根アル一線ノ通路アリ其内庭ノ左傍ニハ講堂アリ又其端ニハ事務所ノ舘アリ此ノ如クニシテ始メテ庭園ニ達スレハ先ツ左方ニ大玻璃障子ノ建物アリ此レ即チ温室ナリ第一ノモノハ桃ノ温室ニシテ室内ノ桃樹ハ墻塀作クリニシテ墻塀作クリハ或ハ燭臺形（カンデラーブル）或ハ半棣棡葉（ドミー、ペルメン）形ニシテ長サ三十五「メートル」（凡我一町三十九間）ナリ又之ニ次キテ温室アリ廣サヲ同フス此レ即チ葡萄ノ温室ナリ

以上温室ノ外八ケ所ノ小温室アリ而シテ以上ノ温室ト此等小温室トノ間ニ長キ平帶アリテ植ユルニ棣棡（シュロ）其他ノ植物ヲ以テス又小温室ハ四個宛平行シテ配置アリ其中往昔ハ鳳梨作クリ方ニ用ヒタルモ目下ハ下文「作クリ方ノ温室」ニ於テ説ク如ク粧飾植物ヲ含有スルモノアリ其他ハ皆暖温室ナリ

又此等温室ヨリ左ニ進メハ一大暖温室アリ此温室ハ「リユー、ギタヂエー」（町名）ニ境スル外部ノ墻塀ニ背シ壯麗宏大ニシテ其中央ニ一大高層樓アリテ玻璃張リノ圓頂格ヲ戴ク此温室ハ佛國學士會會員ニシテ「ウベルサイユ」ノ王宮ヲ建築シタル「ケステル」氏ノ製圖ニヨリ建築シタルモノナリ

以上陳フル所ノ部分ト又此ヨリ陳ヘント欲スル部分トノ間ニ各面殆ント三百「メートル」（凡我百六十五間）ノ地アリテ植物繁茂シ壯觀ヲ添ユ即チ此地ニハ棣棡ノ植附ケアリ此他又夏季ノ間ハ飾ルニ木鉢植ヘ甜橙樹アリ又各種ノ曇華（メンドク）ノ類植附ケアリ此レ即チ温室ナリ第一ノモノハ桃ノ温室ニシテ室内ノ桃樹ハ墻塀作クリニシテ墻塀作クリハ或ハ燭臺形（カンデラーブル）或ハ半棣棡葉（ドミー、ペルメン）形ニシテ長サ三十五「メートル」（凡我一町三十九間）ナリ又之ニ次キテ温室アリ廣サヲ同フス此レ即チ葡萄ノ温室ナリ

以上温室ノ外八ケ所ノ小温室アリ而シテ以上ノ温室ト此等小温室トノ間ニ長キ平帶アリテ植ユルニ棣棡（シュロ）其他ノ植物ヲ以テス又小温室ハ四個宛平行シテ配置アリ其中往昔ハ鳳梨作クリ方ニ用ヒタルモ目下ハ下文「作クリ方ノ温室」ニ於テ説ク如ク粧飾植物ヲ含有スルモノアリ其他ハ皆暖温室ナリ

又此等温室ヨリ左ニ進メハ一大暖温室アリ此温室ハ「リユー、ギタヂエー」（町名）ニ境スル外部ノ墻塀ニ背シ壯麗宏大ニシテ其中央ニ一大高層樓アリテ玻璃張リノ圓頂格ヲ戴ク此温室ハ佛國學士會會員ニシテ「ウベルサイユ」ノ王宮ヲ建築シタル「ケステル」氏ノ製圖ニヨリ建築シタルモノナリ

以上陳フル所ノ部分ト又此ヨリ陳ヘント欲スル部分トノ間ニ各面殆ント三百「メートル」（凡我百六十五間）ノ地アリテ植物繁茂シ壯觀ヲ添ユ即チ此地ニハ棣棡（シュロ）ノ植附ケアリ此他又夏季ノ間ハ飾ルニ木鉢植ヘ甜橙樹アリ又各種ノ曇華（メンドク）ノ類植附ケアリ此等植物繁茂ノ地ノ端ニハ不日橙樹温室即チ冷温室ヲ建築スル筈ナリ此ノ如クスルトキハ帶暖寒冷ナル諸國ノ植物中有益ナルモノヲ植附ケ學生ノ參考ニ供スルヲ得ルモノナリ

又之ト相反スル一方ノ端ニハ氣象測候所アリテ該測候所ニハ園藝上此ノ如ク有益ナル氣象觀察用一切ノ器械アリテ學生ノ使用スル所トナス又稍々進メハ別ニ葡萄及ヒ桃ノ二大温室アリテ上文已ニ陳述シタル二大温室ト連絡ス

又之ニ次キテ「クサイチゴ」ノ防寒所（バーシュ）アリ更ニ葡萄及ヒ桃ノ温室アリ其温室ノ中一ケ所ハ外圍ノ墻塀ニ差掛ケ其廣サ前記ノ大温室ニ優ルアルモ劣ルヿナシ又之ニ次キテ繁殖用養育用ノ温室果實蔬菜ノ園圃粧飾用植物ノ園圃及ヒ冬季庭園アリ此庭園ハ官ノ建築師「ケステル」氏ノ製圖ニ基キ造營シタルモノニシテ大ニ外國種植物ヲ蒐集アルモノナリ

又右方ニ轉シテ「リユー、ド、サトーリー」（町名）ノ方ニ進ムトキハ先ツ階段二三階ヲ下タリテ墻塀作クリ果樹ノ一大方形圍ニ到ル此等ノ果園ハ各面九千六百「メートル」（凡我八町四十六間）實ニ壯觀ヲ極メ其開花又ハ結實ノトキ之ヲ一覽セサレハ





此等植物繁茂ノ地ノ端ニハ不日橙樹温室即チ冷温室ヲ建築スル筈ナリ此ノ如クスルトキハ帶暖寒冷ナル諸國ノ植物中有益ナルモノヲ植附ケ學生ノ參考ニ供スルヿヲ得ルモノナリ

又之ト相反スル一方ノ端ニハ氣象測候所アリテ該測候所ニハ園藝上此ノ如ク有益ナル氣象觀察用一切ノ器械アリテ學生ノ使用スル所トナス又稍々進メハ別ニ葡萄及ヒ桃ノ二大温室アリテ上文已ニ陳述シタル二大温室ト連絡ス

又之ニ次キテ「クサイチゴ」ノ防寒所（バーシュ）アリ更ニ葡萄及ヒ桃ノ温室アリ其温室ノ中一ケ所ハ外圍ノ墻塀ニ差掛ケ其廣サ前記ノ大温室ニ優ルアルモ劣ルヿナシ又之ニ次キテ繁殖用養育用ノ温室果實蔬菜ノ園圃粧飾用植物ノ園圃及ヒ冬季庭園アリ此庭園ハ官ノ建築師「ケステル」氏ノ製圖ニ基キ造營シタルモノニシテ大ニ外國種植物ヲ蒐集アルモノナリ

又右方ニ轉シテ「リユー、ド、サトーリー」（町名）ノ方ニ進ムトキハ先ツ階段二三階ヲ下タリテ墻塀作クリ果樹ノ一大方形圍ニ到ル此等ノ果園ハ各面九千六百「メートル」（凡我八町四十六間）實ニ壯觀ヲ極メ其開花又ハ結實ノトキ之ヲ一覽セサレハ其狀況ハ得テ悉クス可カラサルナリ

又此果園ニ次キ各面二千「メートル」（凡我十八町二十間）ノ菜園アリ此菜園ヲ經然ル後チ更ニ方形地アリ此方形地ハ本校中最深ノ部分ニシテ各面一万二千二百五十「メートル」（凡我三里四町十七間三尺）アリ他ノ方形圍ハ全ク分離シ惟其一面ノミ本部ト連續ス此方形圍ニ入ルトキハ圓錐形仕立果樹ノ蒐集アリ次ニ野天植木本植物、一年草宿根草植物、松柏科植物及ヒ以上列擧スル所ノ方形圍ハ「カレー、デ、セール」（温室ノ方形圍ノ義）ト總稱シ各面六千百「メートル」（凡我一里十九町五十五間）ナリ

又更ニ歩ヲ轉シテ本校本部ニ到リ先ツ一駭ヲ呈スルモノハ果樹ノ蒐集ニシテ其仕立ノ形ニ數多ノ種類アリ

向ヲ執ルトキハ逐次薔薇類石南科植物類ノ蒐集品及ヒ粧飾植物ノ模範育種場アリ此部分ニハ喬木灌木等數多植附ケアリテ已ニ蒐樹園（アルボレトム）ヲナシ園内ノ樹木年ヲ逐フテ益々增殖ス

又直徑ニ「リユー、ド、サトーリー」（町名）ニ對スル部分ハ墻塀作クリ果樹ヲ列植ス此外又仕立木匡（ボスク）佛國風平地園（ペルテール）アリテ此平地



国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

園ヨリシテ本校ノ建物ニ到リ其建物ノ墻塀ニ縦行椰子葉形仕立ノ果樹アリテ誠ニ美觀ナリ

此等植附ケ地ノ中央ニ各面二万四千五百「メートル」（凡我二十二丁二十七間半）ノ方形園アリテ其四分ノ三ハ蔬菜培養ニ四分ノ一ハ果樹ノ育種場ニ充テタリ又其中央ニハ直徑二十六「メートル」（凡我十四間一尺八寸）ノ水溜アリテ水中植物ヲ培養ス此水面道路ト準平ナラスシテ一段降下シ廣キ外階ヲ以テ入口トナシ其中一ノ外階ニハ青銅製「ヲ、キンチニー」氏直立シテ菜園ヲ熟視シ左手ニ樹木ノ枝ヲ有ツノ狀ナリ

此等園園ノ配置ハ實ニ宜キヲ得其中「グラン、カレー」（大方形園ノ義）ト稱スル部分ハ殊ニ然リトス而シテ當初之カ計畫ヲナシタルハ佛王路易十四世ノ果園菜園ノ主幹「ヲ、キンチニー」氏ナリ此園園ハ繞ラスニ露臺アリ此露臺ハ植物ノ培養アル地面ヲ超ユルコト二「メートル」（凡我六尺六寸）ナリ此ノ如ク配置ノ巧妙ナル一方ニ於テハ美觀ヲ添ヘ一方ニ於テ樹木ヲシテ障蔽ヲ得セシムルモノアリ故ニ其開花結實共之カ爲メ大ニ安全ナリ又菜園ハ海面ヲ距ルコト百二十五「メートル」（七十一「サンチメートル」）

（凡我一丁八間六尺八寸）ノ高サニアリテ元來西方ノ風ニ暴露セラルト雖モ此ノ如ク配置宜キヲ得ルカ爲メ大ニ害ヲ免ルヽモノナリ

此場所ハ當初千六百七十八年ニ起業シ千六百八十三年ニ成築セリ其費用ハ實ニ百十七万〇九百八十三「クーウブル」四「スー」三「ドニエー」（凡我貳拾三万四千百九拾六圓六拾錢）ナリシ以上陳フル所ハ本校學生ニ實業上ノ教育ヲ授クル試驗場ナリ此ノ如ク廣大ニシテ亦千種万狀アリト雖モ猶ホ未タ充分ナラサレハ當サニ益々之カ擴張ヲ計ルヘキナリ（未完）

## ○印度園藝一斑（第七號の續）

○肥料　此項は肥料の種類に從て三分すべし即ち第一植物質肥料、第二動物質肥料、第三礦物質肥料とす且つ各地に右三者の何れか適用すべきや又終に肥水混合肥料に就て少く記載せんとす

### 第一　植物質肥料

凡そ新鮮にして少くも腐敗せざる植物質は肥料の効少きは何人も知る所なるが印度國にても右の譯にて園丁は冬期より菜、蘇菁、人參の葉幷に枯屑を地中に埋め置き翌年の下種の節までに土地に馴染ましむるものとす「リッデル」氏の説に依れば野菜池藻及び木垣の刈込も同樣の譯にて肥料となすを得掃寄は庭園の適宜の所に二三を掘りて掃除の度毎に落葉を其處に集め置くべし印度の樹木は一般に常盤木なれば季節に從て新葉を生ず然る後落葉するものなり然れども其季節と申すものも植物一般に同じものにあらず例令ば或る植物は反て夏期温風の候を恐れて落葉するものあり扨又此等の掃寄に時々水を灑げば其腐敗を促すとも亦從て速なりとす此の如き朽葉にして粘土に富める掃寄に堆積するものは一層肥料に適するなり又是等の濃厚なる肥料に砂を加て輕鬆ならしめて以て大に植物に用ゆべく殊に鉢植に適せり

然れども「マドラス」府の「ジョフレー」氏の説に非常に粘土質に富む地と雖も亦適宜の砂土を含むものなれば別段に前陳の如く砂を混和するに及ばず又掃寄は大ょ蟲類を生ずるものなれば此等の肥料を用ゆるに先て必ず能く之を篩ふべし其未だ全く朽ずして篩に殘る分は又穴に投じて須く其全朽を待つべし大抵葉は大凡一ケ年も十中に入れ置けば全く朽腐するものとす凡て植物の大に肥料を吸收して其榮養をなすは發生期に



あれば肥料を施すもの宜く此邊に注意すべし

水灰は古來支那國にて特に貴重する肥料なり左れど其効力の多少は大に其燃燒の工合によりて異なるものなり一般に炭質より徐々に灰に變じたるものを宜とす

油滓、亞麻仁油滓を粉にすれば好肥料を造るべし以て稚き植物、薔薇等に用ひて効あり尤も亞麻仁油滓は家禽の食物に供すべきものなれば從て其價も非常に高し故に多額に用ゆるを得ず「スピード」氏の説によれば此肥料は混りたる粘土質に適するものなりと

藍滓は大に印度の園丁の貴重するものにして勿論青藍を生ぜざる地方には產せず右は青藍製造所にて染料を採取したる後に堆積となりて積置くものとす然れども我輩は普通の植物質と同じき効能をなすのみにして別段のともなきものとせり

### 第二　動物質肥料

廐堆は朽葉に次て必要のものとす殊に馬尿は「ヒユミン」を生ずるものなれをなり「スピード」氏の説によれば馬体を洗ひたる水を掃寄の上に灌ぎ此くして肥料分を增加し併て醱酵作用に堆積となりて積置くものとす然れども我輩は普通の植物質と同じき効能をなすのみにして別段のともなきものとせり

廐堆は朽葉に次て必要のものとす殊に馬尿は「ヒユミン」を生ずるものなれをなり「スピード」氏の説によれば馬体を洗ひたる水を掃寄の上に灌ぎ此くして肥料分を增加し併て醱酵作用をなす凡て廐堆は少く暗き所に積み置くべし又成るべく醱酵



国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

骨粉は大に「ハナハボタン」に適せり然るに印度人は之を嫌ふの傾きあれば必用の外は無理に用ゆべからず動物の死体の植物に宜しきは人の知る處なるが一紳士は印度にて時疫に罹り死したる十二頭の羊を葡萄園の下に埋めたるに果して其果實幷に葉乾等に効力ありしと

### 第三　礦物質肥料

硝石の肥料に用て有効なるとは人の知る所なるが寧ろ農業上の好肥料にして園藝上に關せざるもの、如し鹽類は英國にて「オランダキジャカクシ」に用て効あり吾人は未だ印度にて用ひたるをなければ其適當なるや否やを知るべからず又濕氣ある植物質肥料に石灰を加へて之を分解するときは一の好肥料をなし容易に水に溶け且つ一般の植物に適す

過燐化石灰も亦南方印度にて好結果を奏せしが北部にては未だ大に之を用ひざるもの、如し石製造は骨粉と硫酸との化合によるもの、如し凡て肥料の用は勉て其土壤中缺乏の分を補ふに過ぎざれば必ず其土地々々に適當の方法を行ふを宜とす」

芝の灰は寧ろ礦物質の肥料と同じき性質を備ふ芝は西北地方に産せざるものにして「ペンガル」其他凡て濕氣と熱氣の滿たる地方に多く産す之を鐵板上又は竈にて燒き鉢物に用ゆるものとす又薔薇其他柔軟なる植物に用ひて可なり又「ホクシャ」を培養するに妙なりとす然れども「ホクシャ」は印度に多く生ずるものにして同地にては餘り貴重せざるものとす印度園丁は好で肥料を燒く傾きあり肥糞の如きも亦然り



作用の少き樣勉むべし「フヰルミンゲル」氏の說によれば此等の肥料は凡て寒氣の劇き後に地上に散布し然して乾燥と降雨の兩節中に全く腐敗せしむる樣勉むべし

牛舍の積堆は好肥料なるとは何人も信ずる處なるが印度國にても大に貴重するものとす或は直に地上に散布し又は一二年間ならして而して使用するも宜しとす印度にては國立の牧場より此等の堆糞を得るは必要のとなり

鳩糞幷に鳥糞も之をからせば亦能く「グァノー」（南米に産する鳥糞の名）と同樣の効をなす又象、山羊の糞堆を貴重するものありと雖も吾人は未だ其眞價を知らず惟々人糞は其の効大にして「ヲックノー」の「ボナピア」博士の言によるも花卉蔬菜に適するとを明言せり然るに印度土人は頑固にして之を用ゆるを嫌ひ未だ其有効を認むるに至らざるよし又「リッデル」氏の說に支那にては石灰に人糞其他粘土質砂石を混合して乾肥料を造るよし」「プードレット」は一種の肥料にして印度にては「ダンドク」「天南星」「アルム」等蒔附の後地上に散布するに用ゆ然れども決して下種の節同時に施用すべからず何となれば此の如くせば種子を害するものなり

### 肥水

水に溶したる肥料は肥水と申して東洋にては爾後益增加せんとする景況なり「パッサ」製造所の「ニッケット」氏は放蕾の節に當て之を桃樹に施せしに其結果は非常に宜しかりしと云ひ「リンゼー」氏は說をなして曰く肥水は勉て濃厚ならずして純良に殊に其之を用ゆる度數を屢にすべしと「フヰルミンゲル」氏の說によれば地中に大壺を穿ち多量の水と小許の鳥、山羊、牛糞等を投して肥水を造るべしと言へり但し寧ろ緩和に過るとき決して濃厚に至らざる樣勉むべしと又有名なる一記者も肥水を造るに用ゆる糞堆は水の糞色を變ずるを以て充分とす決して之より過すべからずと肥水は薔薇、菊花及び其他花期に近かしとする花物に用て宜し而して之を施用するの際は土地を鋤鍬にてならし容易に肥水の地中に注下し植物の根端をして吸收に便にせしむべしと且つ肥水を葉幹に灌がざる樣注意すべし印度にても矢張り「グァノー」鳥糞を他の糞堆の如く用て同樣の効をなす由

### 土壤に混じたる肥料

「ソープスッド」も亦「ハナハボタン」其他一般に「ハボタン」屬に適す又緩和したる液を葉に灌げば能く其美觀を增すものとす佛國の肥料にて「ル、フロラル」を稱するものあり實に强濃なる肥料にして一斤（二「ハンドレット、ウエート」）に適す白色「ブリキ」鑵に入れて歐洲より輸入す其の土地を肥すとは非常のものにして能く此肥料のみにて砂礫の地に花物蔬菜樹木を成長せしむ

### 土壤に混じたる肥料

長さ二丈、幅一丈二尺乃至一丈四尺、深さ一丈五六尺の穴を掘り初め一層の肥糞を布き其上に土を散し硝石の溶液を注ぎ此の如く肥糞と土とを交々盛りて凡そ六ケ月を經過すれば肥糞全く土壤と和して一好肥料をなす

凡て肥料を用ゆるには其土地の性質によりて異なるものなれば輕鬆の地には泥土、粘土を以て濃和し然る後に肥料を施すべし是に反して濃厚の地には灰、腐朽せる樹皮等の如き輕き肥料



国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

を用ゆべし又土地を耕せば大に地味を改良するものにして且つ能く一般に濕氣を貯るものとす又下層に石灰質等のある爲に上層に濕氣を吸收せざる土地は少々の灌水を怠らざるべし

印度園藝家の害敵

印度にて降雨の候にては第一日目にても己の庭園の處々に赤色の木虱の發生せるを見る實に此の如き動物は一時に群生するの理は未た詳ならずと雖も蓋し此に先て地下に隱匿せるものなり又一回の降雨あれば白蟻の集りて居室に入り來るあり右は暫時にして羽を生ずるを待て飛散し以て其死を脫せんが爲なり又夜間燈下の周圍に無數の蟲類の飛來るをあり此の如く印度にて蟲類の夥きは實に非常なれば「コガヲムシ」蜘、木虱、根切蟲「イモムシ」其他各種の樹木の害蟲等夥し右の中にても「イモムシ」は葉を害し根切蟲は根を揖する等其害も亦甚し印度樹藝家の二三の害敵を陳べんとす勿論其中にて印度固有の害敵も多しとす

赤蟻は植物を害すると大にして時附けざる種子を取去り又結種の節花瓦を害す殊に蔬菜を嗜み萬苣の種子を害すると甚し左れば「ウコン」草（黃色の染料を根より取る植物）を粉にして之を防ぎ又は



甘味を加たる油の小き皿を置きて害蟲の近よりて死する樣になし又熱湯を穴に投じて之を殺すをもあり此の如くするとき は友蟻來りて其屍を持去るものとす

白蟻は未だ植物を害するや否や判然せずして現に「スピード」「フヰルミンゲル」兩氏の如きも此點にては說を異にす「フヰルミンゲル」氏は白蟻は植物には害をなさず單に枯死せる植物に集るものなれば庭園の美觀を損するの患あるも植物を害するものにあらずと「スピード」氏は白蟻を以て植物を害するものとせり且つ之を防ぐには植物の根に獸血を灌ぎ又圃園の周圍よ鐵屑を埋むるを宜しとせり「デッカン」にては「カヤラン」赤き「コガヲムシ」は胡瓜、水瓜を害し又幼芽を損す「スピード」氏は一々手を以て捕ふるより外に法なしとせり又「フヰルミンゲル」氏は蚊帳の如きものを作くりて植物を被ふべしと云へり又或は木に灰を散布して避くべしと然れども灰の木葉に附着するは樹木を害するの恐あり其他何にしても一々捕獲するの外に法なきが如し

蝗害は實に非常なるものにして其害たるや地震降雹の如き天災と同じきものあり曾て「アグラ」の「トイ」公園を悉皆害せしことあり凡て蝗群は初め遠方より來るときは雲の起る如き觀を呈し遂に所謂蝗害をなすものなり印度土人は其の未だ降らざるに先て「ドヲ」金屬の片板を鳴して奔走し之をオドスなり然れども其の一たび降下するに至りては數分にして樹木綠色到底之を救ふの方法はこれなしとす（未完）

## ○問答

問ふと多きものは學ぶをも亦多し

「英國ベーコン」の語

越後國思川　上村廉平

### ○問

枇杷ハ十一月開花シ翌年結果スルト聞ク我地方ニ該樹ノ結果スルヲ見ス因テ小生本年四月枇杷樹九尺餘ノ品遠方ヨリ取寄植附置候處四五日以前ヨリ每枝ニ蕾見レ余モ雀躍ノアマリ樹下ニ日々々々蕾ノ太リヲ樂居候然ルニ我越後國ハ積雪二丈餘ノ寒地ニシテ寒中開花ノ草木栽培スル能ハス該樹雪圍中ニ開花シ翌年ニ無悉結果スル安全ノ雪圍等又ハ寒烈凋凍ノ患ヲ被ヲサル樣ノ眞法ヲ貴社雜誌ノ餘白ヲ借リ以テ識者ノ敎授ヲ仰ク

### ○答　曲辰生

枇杷ノ花每ニ結花セシムルヿハ當東京地方ニテモ出來ス殊ニ初年ノモノハ猶更結果少ナキヿ豫メ御承知置キ左ノ方法ニテ雪除出來成サレ候テ可然候

枇杷樹ノ枝餘リニ廣カリ居ル枝ヨリ徐々ニ柔カニ藁繩ヲ以テ幹ノ方へ撓メ寄セ（撓メ寄セルハ寒風ノトキ枝椏動搖スルトキハ一層寒氣ニ觸レ候モノニテ譬ヘハ熱キ湯ニ入溶シ湯ノ中ニ動クトキハ一層刺戟ヲ增スノ道理ハ御承知成サレ又雪除ヲナスニ便宜ナレハナリ）丈夫ナル杉丸太四本ヲ以テ四角ニヨク柱ヲ立テ此柱ヲ上部尖形ニ一シ打付ケ轉覆又ハ橫間ヨリノ壓雪ヲ防ク是ノ如シテ組立終レハ柱ノ中央二三通リニ胴ヲ結付ケ又柱一本每ニ根本ニ添杭ヲ





国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

葭簀（稻雪ノ甚大ナル土地ハ竹ニ換フ）ヲ中部ニ纏ヒ押ヲ取付ケヘシ葭簀ハ南ノ方ヲ中バトシ左右ヘ纏ヒテ北方ニ卷合候樣ニナスヘシ是ハ日光ヲ透シ寒風ヲ防ク故ナリ而シテ枇杷樹ノ丈ケ九尺ノモノニ二間餘ノ柱ヲ用ヒ中央ヘ幅六尺ノ葭簀ヲ蓋纏セハ上下各二尺宛ノ空際ヲ生スヘシ其下部ノ空際ハ其儘ニ致シ明ケ置キ上部ノ空際ハ藁鳥羽（トバ）ヲ以テ層々卷キ上ケ頂上ヨリ雨水ノ侵入ヲ防キ置キ候テ安全ニ御座候

因ニ申ス此ノ藁鳥羽ハ越後國邊ニ多ク用ヒ霜除ケ雨覆ヒ等ニ至極廉價ニシテ重寶ノ物ナリ其ノ捨ヘ方ハ藁半握リ程ヲ二ツニ折リ別ニ藁一握ヲ以テ折目ヘ挾ミ打チタル藁ヲ上下ニ組合セ亦更ニ一握ヲ挾ミテ前ノ如ク上下ニ入レ違ヘ挾ミタル藁ニ建藁ヲ補ヒナカヲ層々組成シテ便宜ノ長サニ終リタル者ナリ東京地方ニハ餘リ見受サル故ニ序ナカヲ爰ニ記ス其詳細ヲ實驗ナサレタキ御方ハ生藁一把曲辰園ヘ御持參成サレ候ヘハ何時ニテモ仔細ニ可申上候

## ○問　大凹閑々農

竹及松等ヲ園塊ニ叢植シ水盤中ニ置クモノアリ右ハ如何ナル土ヲ用ヒ如何ナル仕方ニテ植附ケヘキヤ

## ○答　曲辰生

竹及松等ヲ水盤ニ仕立成サレ候ニハ土ノ種類ハ別段ニ撰ヒ申サス何土ニテモ植塊メ候事ニ御座候水盤用ノ竹ハ御承知ノ通リ肥土ニ植付ケ適宜ニ水ヲ與フルトキハ餘リ生長ニ過テ盆栽ニハ面白カラサル故ニ重ニ平タキ盆或ハ無肥ノ砂土ニ植ヘ瘠セサセ候上水ヲ多ク與フカ又ハ之ニ反シテ水ヲ甚敷節シ飽迄瘠セサセ候次第ニ付右御承知ノ上何レヘナリトモ植付ケノ初メヨリ暫クハ適宜ニ培養成サレ居付候トキハ忽チ枝根トモニ繁茂候ニ付夫ヨリ徐々ニ水盤ニナレサセ候樣成サレ候テ然ルヘクト存候

## ○問　近藤留之助

余ハ朝顏ヲ培養シ日光ト空氣ニツナカヲ宜シキ所ニ植附年々種子ヲ多ク付ルモ秋ノ末ニ至リ種子ノ蒂又ハ蔓ノ處々ニ腐レ生シ附着種子ノ三分一モ實ノルコトナシ右ハ時候ニモ依ルヘシト雖モ木及ヒ實ハ青々トシテ赤ラムコトナシ此等ニ付キ腐ヲ防キ且實入リノ多ヲシムル良法ノナキモノナルヤ

## ○答　曲辰生

牽牛子（朝顏ノ實）及ヒ蔓ノ秋氣ニ臨ミテ腐レヲ生シ或ハ實ノ熟セサルハ御承知ノ通リ牽牛花ハ光線ノ劇甚ニ弱キモノ故ニ拂曉ニ開キ十時頃ニハ萎ミ候モノニテ隨テ根モ甚タ光線ヲ嫌フモノト御承知成サレ度候扨テ特ニ牽牛花ニ限ラス何植物モ餘リ勢力ノ盛ナルトキニハ花モ實モ充分ナラサルモノニ御座候即チ牽牛花ノ炎暑ノ爲メニ勢力ヲ撓メラレテ却テ仝候ニハ花モ實モ能ク多ク結ヒ候者カ追々秋氣ノ加ハルニ及ンテ徒ラニ勢力ヲ增シ候故ニ蔓實トモ何時迄モ青々ト致シ居追々胞內ニ居ナカラ種子ノ發芽ヲキザスナリ去ナカラ仝ク發芽スル程ノ勢力モ得カタケレハ更ニ變シテ腐敗ニ陷ヒル次第ニ付キ以上御承知ノ上種子ヲ多ク收入被成候御見込ノ分ハ餘リ勢ノ盛ナルモノハ他ノ地ヘ移植成サレ（日當リ好キ處ヲ撰フ又他ニ日當リ好キ場所都合惡シケレハ同一ノ地ニ移植ス）其際直根ヲ減シ成サレ候テ可然候

## ○問　不知老葬主人

頃者植物雜誌ヲ見ルニ「あじさい」花ヲ青色ニ變セシムルニハ明礬ヲ用ユトアリ又タ燐酸鐵及ヒ鹽化アンモニアヲ用テ赤色ノ花ヲ益ス鮮色ナラシメ漂白粉ヲ用テ花色ヲ橙黃色ニ變セシムルヲ得トアリ右ハあじさいト同科花ナレバ同法ヲ以テ青色トスルヲ得ベキヤ又タ燐酸鐵及鹽化アンモニア漂白粉等ハ何レノ花ニモ用テ効果ヲ見ルヿ可キヤ蕾德又ハ石楠等ニモ用テ然ル可キヤ且ツ之ヲ用ユルノ方法及ヒ其時季ハ如何

## ○答　東京　I生

○問ニ「日本園藝會雜誌第三十四號ヲ御一覽アレ」ト答ヘ候ニハ餘リニ仕方ナキ樣ニ候ヘ共強テ申セハ一寸ト申ス外ナシ

## ○問　東京　I生

目下世上ニハ所謂改正ト稱スル條約ノ件ニ付キ喧シク論スル者アリ又タ赤色ノ花色ヲ拔キ雪白ニ變ゼシムル方法ナキヤ又タ深黃色ニ花ヲ變ゼシムル方法ナキヤ

## ○答

植物學雜誌第三十四號ヲ御一覽アレ

## ○問

目下世上には所謂改正の條約の件に付き喧しく論ずる者あり又赤色の花色を抜き雪白に變ぜしむる方法なきや又深黃色に花を變ぜしむる方法なきや

## ○答

植物學雜誌第三十四號を御一覽あれ

## ○問　不知老葬主人

頃者植物雜誌を見るに「あじさい」花を青色に變ぜしむるには明礬を用ゆとあり又燐酸鐵及び鹽化アンモニアを用て赤色の花を益す鮮色ならしめ漂白粉を用て花色を橙黃色に變ぜしむるを得とあり右はあじさいと同科花なれば同法を以て青色とするを得べきや又た燐酸鐵及鹽化アンモニア漂白粉等は何









国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

As Japan is celebrated for bamboos, there are many kinds of them and used for several purposes by the native. A particular one called Mōsō rises to the height of 40 or 50 feet and over six inches in diameter, but it should not be used for any building, as it is not solid enough to be lasted for some long years and only used for pen-stards, trays and ornaments of house or flower puts. There are also some different kinds to be used for some particular buildings and special articles or seals, as they are very solid and strong, such as Madake and Jitsuchiku. Other bamboos called Kinmeichiku and Suōchiku, both of them have most beautiful colours in their natures, but not to be able to keep those special colours for long times, when they are taken out of the earth. Besides, there are over 60 of different kinds such as Hachiku, Gomadake, Yadake etc., some of them are to be used for buildings and articles, while the rests merely are adopted for the ornaments in gardens or plant pots.

In order to show that many special kinds of bamboos, as above mentioned, which grow in several district in Japan have particular qualities and special uses the 51 samples of them are collected from 26 species which should be to be borne different appearences on artificiality.

The undersigned is prepared to accept any order on them in moderate prices.

| | |
|---|---|
| ○ Male Bamboo. | □ Creeping root. |
| △ Female Bamboo (Not scientific signi fication.) | ⧖ Lamping root. |
| | ⊠ Irregular root. |

Motoyoshi　Ono,

No. 13, Suyehirocho, Kandaku, Tōkyō, Japan.

へ入荷高は密柑は紀州拾貳万千四百箱泉州駿河壹万八千三百箱伊豆相模(杉入)八千二百樽なり又生柿た壹万五千駄(但シ籠數六万籠)樽柿は五万七百樽なり(青木物三郎氏報)

## ○本會紀事

本會々員佛人サラゼン氏は曩きに同國アンチーブの植物園長より日本の「ナツミカン」「大枇杷」「クロモジ」を送り呉れとの書信に接し其發送方を本會に依頼ありたり本會々員竹中卓郎氏之か蒐集荷造等一切の勞を取られサラゼン氏兼て所有の日本葡萄苗も共に佛國に向け發送せり

## ○本會廣告

曩きに第八號の雜誌にて稟告したる如く今般本會に於ては規則を改正一本十二月より施行候に付ては本十二月に於て十二月、一月、二月の三ヶ月分會費金六拾錢御納附有之樣致度且つ從前十一月迄の會費未納の者は此際併せて御拂込有之樣致度此段及稟告候也

但し規則第五章第五節の儀は新ゴ入會するものに對ー適用するものなれは從前よりの入會者は自己に於て營業者たるとを御証明ある樣致度此段添て稟告候也

○本會雜誌第一、第二、第五、第六の四號ハ悉皆出拂ひたり

○本會雜誌の義は郵便を以て發送候處會員の中或は接受せざる向有之て久しきを經て雜誌未達の旨御申越有之ももはや雜誌出拂のときは更に發送するを能はさるとあり此段豫て御承知相成度候

○本會雜誌編輯者は兼て廣告せし如く毎月第二、第四の土曜日午後二時より五時迄の間に東京飯田町六丁目八番地に於て接見可仕候但し十二月は土曜日も不在に候

本會の小野職愨氏撰述の日本竹品名牌は我國竹の種類を記述し大に有益なるものなり我國竹の諸種類は外國に於て重んせらるゝものなれは旁同氏に請ひて爰に掲載するとせり

## 緒言

竹は本邦の名産にして其品種頗る多く隨て所用も亦尠からす而て幹の最も太きは江南竹の如く圍み二尺餘長さ四五丈に及ふ者あり其品質は堅硬ならすと雖も特に巨大なるを以て建築上或は裝飾に用ひ又は花尊(ハナイケ)、筆筒(フデツヽ)、皿(サラ)、盆(ボン)類の器物を製造するに適す幹太くして且つ長く圍み尺五六寸長さ六七丈に達し品質の緊實にして建築及ひ器物に適する者あり苦竹の如し又實竹一名實心竹なる者あり根際尺許の所節間短縮中心充實して質最も堅し以て印材に用へし奥州松島及ひ阿州一字山に産す又幹に縱皺紋ある者あり淡路、阿波、土佐に産す漢名詳ならす和名えぼちく一名えはちくと云ふ黄金間碧玉竹(キンメイチク)、金絲竹(スワウチク)の如きは名稱に負かす生幹は美麗觀賞すへしと雖も伐て日を經る時は美觀を完ふする能はす其他淡竹(ハチク)、紫竹(ゴマダケ)、箭竹(ヤダケ)の類尚ほ六十餘種の多きに至ると雖も其所用の建築器物に適する者は若干種に過きす餘は大抵庭中の裝飾若くは盆栽觀賞に供する者のみ筍(タケノコ)の食すへき籜(タケノカハ)の用へき或は鞭根小枝及ひ纖維の需用ある者の如きは一々之を辨せす今爰に建築器物に適するもの又裝飾に佳なるもの二十六種の中に就て其産地の異なる者又天工人工に因て外觀を異にするもの合せて五十一品を撰ひ外に參考用支那産斑竹五品を加へ之を竹品名牌と題し竹質の良否を示し所用の方針を知らしむ若し夫れ形狀性質効用培養の詳細を知らんと欲せは桂園竹譜、日本竹譜に就て見るへし

○ 男性竹 ｛男竹、女竹は俗間の通稱にして學術上雌雄の意味あるにあらす葉の形と節の高低に因て命名する者なり

△ 女性竹

□ 鞭根　鞭根は根鞭狀をなして延蔓繁殖する者なり

⧖ 科根　科根は根一科に株をなして繁生する者を云

⊠ 鞭科根　鞭科根は鞭根を生し又は一科に株をなし一定の規律なきものを云ふ

# 日本竹品名牌

小野職愨撰述

Collection of Japanese Bamboos by Motoyoshi Ono, Kandaku, No 13 Suyehirocho, Tokyo.

| 第一 | 第二 | 第三 | 第四 | 第五 |
|---|---|---|---|---|
| まだけ(苦竹)(武藏) | さびたけ(まだけ)又たちがれだけ(武藏)(器) | はちく(淡竹)(武藏) | さびたけ(はちく)又たちがれだけ(武藏)(器) | めくろだけ(はちく)(武藏)(器) |
| ○(建)(器)(籠籃) □(籀)(簾)(水管) | | ○(建)(器)(籠籃) □(釣竿) | | |
| No. 1. Madake. Bambusa. (Musashi) Use: Building, furniture, basket, hoop, blind and water-pipe. | No. 2. Sabitake. or Tachigaredake, (Madake.) (Musashi) Use: Furniture. | No. 3. Hachiku. Bambusa Puberula, Miq. (Musashi) Use: Building, Furniture, basket and fishing-rod. | No. 4. Sabitake. or Tachigaredake, (Hachiku.) (Musashi) Use: Furniture. | No. 5. Mekurodake. (Hachiku.) (Musashi) Use: Furniture. |

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

| | | | |
|---|---|---|---|
| No. 15. Kinmei-chiku. Bambusa pygmdæa, Miq. (Musashi) — Use: Ornament. | 第十五 きんめいちく 黄金間碧玉竹 (俗)金明竹 (武藏) □○(裝飾) | No. 12. Hoteichiku. Bambusa sterilis, Krz. (Musashi) — Use: Stick, fishing-rod and furniture. | 第十二 ほていちく (俗)布袋竹 人面竹 (武藏) □○(杖)(釣竿)(器) |
| No. 16. Shibo-chiku or Shiwa-chiku. Bambusa. (Awaji, Awa, Tosa) — Use: Building and furniture. | 第十六 しぼちく 又しばちく (俗)皺竹 (淡路)(阿波)(土佐) □○(建)(器) | No. 13. Sabitake, (Hoteichiku.) (Musashi) — Use: Furniture. | 第十三 さびたけ(ほていちく) 又たちがれだけ (武藏) (器) |
| No. 17. Tō-chiku. Bambusa. (Musashi) — Use: Ornament. | 第十七 たうちく (武藏) □○(裝飾) | No. 14. Muchigo, (Hoteichiku.) — Use: Stick. | 第十四 むちご (ほていちく) 人面竹 鞭根 (鞭) |



| | | | |
|---|---|---|---|
| No. 9. Goma-dake. Phyllostachys nigra, Munro. (Musashi) — Use: Building, furniture, umbrella handle and stick. | 第九 ごまだけ (俗)胡麻竹 (紫竹)(武藏) □○(建)(器)(傘)(柄)(杖) | No. 6. Mouso-chiku. Bambusa. (Musashi) — Use: Building, furniture and water-pipe. | 第六 まうそうちく 江南竹 (武藏) □○(建)(器)(水管) |
| No. 10. Nitari, (Gomadake.) (Musashi) — Use: Building, furniture, umbrella handle and stick. | 第十 にたり (ごまだけ) (武藏) □○(建)(器)(傘)(柄)(杖) | No. 7. Tambahanchiku. Bambusa. (Tamba, Ōmi) — Use: Building and furniture. | 第七 たんばはんちく 斑竹又雲斑竹 (丹波)(近江) □○(建)(器) |
| No. 11. Kurochiku, (Gomadake.) (Musashi) — Use: Building, furniture and stick. | 第十一 くろちく(ごまだけ) 黒竹又鳥竹 (武藏) □○(建)(器)(杖) | No. 8. Abehanchiku. Bambusa. (Suruga) — Use: Furniture. | 第八 あべはんちく (河駿) □○(器) |



国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

特
5

No. 21. Medake.
Arund naria Japonica S. et Z.
(Bōshiu.)
Use: Building, furniture, basket, fishing-rod, wall frame and fan handle.

第廿一
めだけ
(俗)女子竹
筬又山竹
(房安)
□△(建)(墨)(籠籃)
釣竿(壁骨)
團扇柄)

No. 18. Narihira-dake.
Bambusa.
(Musashi)
Use: Ornament.

第十八
なりひらだけ
(俗)業平竹
(藏武)
□○(裝飾)

No. 22. Yadake or yanodake.
Phyllostachys Bambusoides, S. et Z.
(Musashi, Bōshiu)
Use: Furniture, fishing-rod, tea sieve, pen handle and fan handle.

第廿二
やだけ
やのだけ
(俗)矢竹
箭竹
又箭竹
幹竹
△□(武藏)(安房)
(墨)(釣竿)
(茶篩)(筆管)
(團扇柄)

No 19. Shikaku-dake.
Bambusa.
(Musashi)
Use: Furniture and ornament.

第十九
しかくだけ
(俗)四方竹
方竹
(武藏)
□○(墨)
(裝飾)

No. 23. Torafu-dake.
Bambusa.
(Suruga)
Use: Furniture.

第廿三
とらふだけ
(俗)虎斑竹
(向日)
□△(墨)

No. 20. Kanchiku.
Bambusa nana, Rox.
Var. gracillima, Krz.
(Musashi)
Use: Furniture, pen handle and hedge.

第二十
かんちく
(俗)寒竹
紫竹
(武藏)
同名あり
□○(墨)
(筆管)
(藩籬)



No. 24. Torafudake.
Bambusa.
(Suruga)
Use: Furniture.

第廿四
とらふだけ
(俗)虎斑竹
(河駿)
□△(墨)

No. 25. Taimin-chiku.
Bambusa.
(Musashi)
Use: Ornament.

第廿五
たいみんちく
(俗)大明竹
四季竹
(藏武)
□△(裝飾)

No. 26. Kanzanchiku.
Bambusa.
Use: Ornament.

第廿六
かんざんちく
(俗)寒山竹
篠
(武藏)
□△(裝飾)

No. 27. Hakonedake.
Bambusa chino, Fr. et Sav.
(Sagami, Izu, Bōshiu)
Use: Building, furniture, basket, torch, wall frame, fence and rope.

第廿七
はこねだけ
(俗)箱根竹
(相模)(建)(墨)(籠籃)
(伊豆)(火把)(壁骨)
△□(安房)(墻)
竹繩)

No. 24. Torafudake.
Bambusa.
(Suruga)
Use: Furniture.

第四廿
とらふだけ
(俗)虎斑竹
(河駿)
□△(墨)

No. 28. Hakonehanchiku.
Bambusa.
(Sagami)
Use: Furniture and pen handle.

第八廿
はこねはんちく
(撲相)
(墨)
(筆管)

No. 25. Taimin-chiku.
Bambusa.
(Musashi)
Use: Ornament.

第五廿
たいみんちく
(俗)大明竹
四季竹
(藏武)
□△(裝飾)

No. 29. Fudejiku,
(Hakonedake.)
(Sagami, Bōshiu)
Use: Pen handle.

第九廿
ふでぢく
(はこねだけ)
(俗)筆軸
(相摸)
(安房)
(筆管)

No. 26. Kanzanchiku.
Bambusa.
Use: Ornament.

第六廿
かんざんちく
(俗)寒山竹
篠
(武藏)
□△(裝飾)



国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

| 第十三 | 第三 | 第一 |
|---|---|---|
| ほそふでちく（はこねだけ）（相摸）（安房）（細筆管） | 北海道（ちくこたんやき）（俗積古丹竹）△（器）▨（烟管） | ほうらいちく 又たいほうちく（俗）工用竹（駿河）△（竹火繩）▨（藩蘺）（裝飾） |
| No. 30. Hoso-fudejiku, (Hakonedake.) (Sagami, Bōshiu.) Use: Pen handle fine. | No. 33. Shakotan-chiku. Bambusa. (Hokkaidō) Use: Furniture and pipe stem. | No. 31. Hōrai-chiku. Bambusa aurea, Sieb. (Suruga) Use: Rope match, hedge and ornament. |

| 第二 | 第五 | 第四 |
|---|---|---|
| すわうちく 又すゞたけ（安房）（金絲竹）▨（裝飾） | ねまがりだけ 又ぢんだけ（濃信）△（籠籃）▨（墻） | 武藏（ちくこはんやき）（ばんちく）△（器）▨（烟管） |
| No. 32. Suwōchiku. Bambusa. (Bōshiu) Use: Ornament. | No. 35. Nemagari-dake or jindake. Bambusa. (Shinano) Use: Basket and fence. | No. 34. Shakohan-chiku. Bambusa. (Musashi) Use; Furniture and pipe stem. |

| 第六 | 第七 | 第九 |
|---|---|---|
| 武藏（やきばざゝ）山白竹 △（裝飾） | 信濃（すゞたけ）又すゞ（箸箭）△□（器（栲栳）帽子（火把）箸（數物）） | ばいらちく 梅羅竹（器） |
| No. 36. Yakiba-zasa. Bambusa senanensis, Fr. et Sav. var. albo-marginata. Fr. et Sav. (Musashi) Use: Ornament. | No. 37. Sudzutake. Bambusa senanensis. Fr. et Sav. (Shinano) Use: Furniture, trunk box, cap, torch, chop sticks and floor mating. | No. 39. Bairachiku. Bambusa. Use: Furniture and stick. |

| 第八 | 第十四 |
|---|---|
| ぶんござゝ（俗）五枚篠（武藏）□○（籠籃）（箸）（筆管） | だいばいらちく 大梅羅竹（器） |
| No. 38. Bungozasa. Phyllostachys. (Musashi) Use: Basket, chop sticks and pen handle. | No. 40. Dai-bairachiku. Bambusa. Use: Furniture. |

考參

## 竹斑産那支

The specimers of spotted bamboos in China.




国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

| | | | |
|---|---|---|---|
| No. 49. Shiratake. Fudejiku, (Yadake.) Whitend. (See No. 22.) Use: Pen handle. | 第四十九 しらたけ ふでぢく (やだけ) (筆管) | No. 46. Somesusudake, (Hachiku.) Smoked imitation. (See No. 3.) Use: Furniture. | 第四十六 そめすゝだけ(はちく) (俗)人工煤竹 (器) |
| No. 50. Kuro-Fudejiku, (Hakonedake.) Blackdyed. (See No. 27.) Use: Pen handle. | 第五十 くろ、ふでぢく (はこねだけ) (筆管) | No. 47. Gihanchiku, (Hachiku.) Spotted bamboo imitation. (See No. 3.) Use: Furniture, stick and umbrella handle. | 第四十七 ぎはんちく(はちく) (俗)擬斑竹 (器) (杖) (傘柄) |
| No. 51. Cha-Fudejiku, (Hakonedake.) Browndyed. (See No. 27.) Use: Pen handle. | 第五十一 ちや、ふでぢく (はこねぢく) (筆管) | No. 48. Susutake, (Medake.) Smoked. (See No. 21.) Use: Furniture. | 第四十八 すゝたけ(めだけ) (器) |



| | | | |
|---|---|---|---|
| 以人工 異外觀者 The specimens on Artificiality. | | No. 41. Shōhichiku. Bambusa. Use: Furniture and stick. | 第四十一 しやうひちく 湘妃竹 (器) (杖) |
| No. 44. Susutake, (Madake.) Smoked. (See No. 1.) Use: Building and furniture. | 第四十四 すゝたけ (まだけ) (俗)煤竹 (建) (器) | No. 42. Mehanchiku. Bambusa. Use: Furniture and stick. | 第四十二 めはんちく (器) (杖) |
| No. 45. Susudake, (Hachiku.) Smoked. (See No. 3.) Use: Building and furniture. | 第四十五 すゝだけ (はちく) (俗)煤竹 (建) (器) | No. 43. Ō-mehanchiku. Bambusa. Use: Furniture. | 第四十三 おほめはんちく (器) |



国立国会図書館 タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

| | | | |
|---|---|---|---|
| 第二十五<br>のしろぬり、らうだけ<br>（はこねだけ）<br>（俗）刺字竹<br>（烟管） | No. 52. Noshironuri-raudake, (Hakonedake.) Japanned. (See No. 27.)<br>Use: Pipe stem. | 第五十五<br>べつかうぬり、らうだけ<br>（はこねだけ）<br>（烟管） | No. 55. Bekkōnuri-raudake, (Hakonedake.) Japanned. (See No. 27.)<br>Use: Pipe stem. |
| 第三十五<br>こもんがた、らうだけ<br>（はこねだけ）<br>（烟管） | No. 53. Komongata-raudake, (Hakonedake.) Japanned. (See No. 27.)<br>Use: Pipe stem. | 第六十五<br>ふゆぬり、らうだけ<br>（はこねだけ）<br>（烟管） | No. 56. Shunuri-raudake, (Hakonedake.) Japanned. (See No. 27.)<br>Use: Pipe stem. |
| 第五十四<br>ふたんぬり、らうだけ<br>（はこねだけ）<br>（烟管） | No. 54. Shitannuri-raudake, (Hakonedake ) Japanned. (See No. 27.)<br>Use: Pipe stem. | | |

十


Etablissement d' Horticulture.
-Maison fondée en 1835-
Alexis Charozé
La Pyramide Près Angers Maine & Lo
(Franc
Exposition Universelle Paris 18
-Médaille d'or-

佛國メ—ヌ、エ、ロワ—ル縣アンヂエ—ル市近傍ラ、ピラミ—ド
アレキシス、シヤロー ゼ園藝場
本場ハ千八百三十五年ノ設立ニ係リ千八百七十八年巴理万國博覽會ニ於テ金牌ヲ得タリ

本場ハ主トシテ左記植物ノ商賣ニ從事ス
○果樹○粧飾喬木灌木○バラ類○タイサンボク類○松柏科類○ツヽジ類○ツバキ類○シヤクナゲ類（以上種類數多備リ居レリ）○暖温室冷温室植物○美葉植物○センヲンサウ類○椰樹類○蘇鉄類○羊齒類○蘭類

本場植物一切ノ目錄ハ毎年出版シ新版圖書入リノ分ハ何人ニテモ御要望ノ方ヘ無代價ニテ送附スヘシ

本場ハ輸入輸出ニ從事ス

日本園藝會雜誌 第九號

Carters'
Royal Seedsmen to H. M. the Queen
of England
237 & 238 High Holborn London

日本國ノ爲メ蒐集ノ英國種子類
カ—タ—ス會社

英國蔬菜種子入リノ箱
代價拾六志○貳拾三志○四拾三志○五拾六志○七拾志○九拾志○百貳拾志等種々アリ
但代價ノ高低ニヨリ箱中種類ノ類ニ多少アリ

英國花卉種子入リノ箱
右ハ何レモ普クヨク知レ渡リテ見事ナル者ナリ
代價ハ五志六片○拾壹志○拾七志○貳拾貳志○三拾五志○五拾志

以上ノ種子ハ精々注意ヲ加ヘ殊ニ船積トテモ此迄從來ノ經驗モアリ旁御都合ヨク御爲向專一ニ發送取扱可申候
以上ノ箱ハ横濱長崎兵庫等ノ各地ヘ小包郵便ニテ發送可仕候
但シ別段運送賃不申受候
圖書入リ植物目錄ハ無代價無遞送料ニテ可差上候
英國皇帝陛下種子御用達
倫敦ハイ、ハルボルン二百三十七、八番地
カ—タ—ス會社

# ●植物學雜誌第三十四號目錄

一リンネウス氏肖像（第十七版）（略傳記ハ次號ニ掲載ス）
一日本植物新稱　理科大學助教授　松村任三
一高等教育植物細胞學講義（圖入）　同　同
一植物病理學講義（前號ノ續キ）　東京農林學校教授　白井光太郎
一植物ノ防禦機關ヲ論ス　理科大學　堀正太郎
一ライケン（Lichenes.）通說（前號ノ續）　理學士　三好學
一日本藥局植物篇（前號ノ續キ）　會員　澤田駒次郎
一普通植物學講義（前號ノ續キ）　理學士　齋田功太郎
一科名屬名ノ語原　會員　大久保三郎
○雜錄
一バークレー氏　一ひめのやがら
一草木圖說ノむかでさう　一いはがねぜんまい
一なぎ並ニかうやまきノ自生　一あづまつめくさノ學名
一やうらくらんトおほばやうらくらん　一むかでさいしん
一そのえびね　一ダーヰン氏著 Origin of Species ノ三十年祭
一五種ノ蘭科植物
一大そてつ　一しうかいどう
○英和對譯植物俗名（三十一號ノ續キ）
○質問應答三件
○箱根產植物目錄（前號ノ續キ）
○植物學雜誌第三卷目錄

二十二年十二月十日　東京神田表神保町一番地　東京植物學會編輯所

●牧畜雜誌十二月十日發兌第二十二號目次

◯論說●家畜早育性●牧羊の說（承前）●乳牛撿查法論
◯雜錄●養雞場器具要錄の四（圖入）●乳牛の食量●磁石力と雛雞の關係●米國の煉乳并に乾酪●ゲープ病の治法●佛國種畜共進會紀事●東京府下の屠獸數●犬の雞を喰殺す治法●京都府下の牛病●家禽に石灰●日本豕歐人に貴重せらる●朝鮮の牛疫●沖繩產の豕皮●雀の効用●軍馬購買●蘭國の種牛●獺一頭に四法
◯統計●北海道牛馬數
◯寄書●二十二年度養蜂試驗
◯漫言●飲用水●實用の兎
◯問答●豕の目方質問の答●雛雞の發病及ひ斃死に付質問の答●兎の惡癖治法質問の答●牝牛に付質問の答●其他新質問數件●廣告

定價一册現金七錢●六册前金四十錢●十二册前金七十五錢●二十四册前金一圓四十錢●外に一册に付郵稅金五厘宛可申受事

●東京市京橋區八官町壹番地　牧畜雜誌社

日本園藝會雜誌　第九號

●農●家●諸●兄●ニ●謹●告

農事ノ改良進歩ハ●◯全國農家一致結合◯ノ力ニ據ラザレバ効ヲ奏スルコト固ヨリ難シ本園茲ニ見ルアリ全國農家諸兄ニ向ヒ此事ヲ謀リシニ非常ノ贊成ヲ得テ追々ル●實驗ニ富メル●有名ナ●老農學士等ノ加盟アルニ至レリコレ獨リ本園ノ幸福ノミナラズ國家ノ幸福コレヨリ大ナルナカルベキヲ信ズ凡ソ直接間接ヲ不問農業ニ關係アル業務ニ從事セラルヽノ士ヨ速ニ來テ加盟セラレヨ

此同盟ノ機關トスル處ノ農談ハ其第八號ヲ十一月二十日刊行セリ其目次ハ

◎農談●輕便粉挽器械●種苗交換同盟會ヲ祝ズ●煙草栽培肥料ノ効用●馬鈴薯ノ効用（承前）◎種苗交換●種苗請求八件●同分與八件◎問答●馬鈴薯貯藏法二件●麥ノシブ病豫防法●赤米豫防法二件●茅ヲ絶ツ法二件●桑樹除害法二件●蘭ノ培養法●質問十一件◎報告●稻及大豆試作ノ報告●浸水米ノ用法◎雜報●決明ノ効用●鹽分除却法◎種苗部報告四件◎廣告六件

●郵券五厘形十枚ヲ送ラバ見本ヲ呈ス●郵券貳錢ヲ送ラバ農談號外大根ノ作法一部ヲ進呈ス

靜岡縣周智郡氣多村
同盟發起　好耕園
園主　中村和三郎謹白

學術隨筆博聞雜誌第五十一號

十二月五日發兌◯每月二回◯一册金八錢◯半ケ年金九十錢◯一ケ年金一圓七十錢◯無遞送料●此雜誌ハ學者及ビ學者物識ト成ント欲スル人ノ讀ムベキ雜誌ナリ●本號ヨリ第六十號迄ヲ第五編トスレバ本號ヨリ御購讀ニナレハ都合ヨロシ

發行所　東京京橋區弓町十番地　博聞雜誌社

日本蠶業雜誌第二十五號目次

論說◯露西亞桑（Russian Mulberry.）の說米國費府エ、ブランク君◯養蠶改良法（承前）農商務四等技師練木喜三君◯養蠶講話（接第貳拾三號）農商務技手松永伍作君◯蠶絲業に於ける伊佛の關係山岡次郎君
統計◯長野縣信濃國と全國と蠶絲產額の比例◯明治二十年長野縣信濃國山繭、柞蠶繭產額◯明治二十二年九月中絲、繭、眞綿輸出額港別
批評◯「實驗」の評◯「蠶桑業損益調査表」略評◯「蠶桑之」
問答を◯「蠶飼ふへき一種の草」は付問答◯本邦古代の蠶種問◯赤熟及ひ小石丸、二種の起原問◯養蠶と南風の關係問◯支那の養蠶地問◯茳芏製養蠶網の得失問◯桑苗の蕃殖法と桑園の管理法問◯桑樹に於ける蝸牛豫防法問
雜錄◯歸朝したる蠶業者の視察談◯佛國蠶業者の議決◯丹後一と岡山◯絲價騰貴の原因◯橫濱の生絲賣込高◯生絲優等者の褒賞◯蠶業有功者の褒賞◯農務局蠶業試驗場◯養蠶傳習所◯桑梢分與◯蠶桑餘事◯附錄◯八丈桑鑑（接第貳拾三號）土佐服部徹君撰

◯定價前金一部八錢、十部七拾錢、二十部壹圓貳拾錢、郵便稅一部金五厘廣告料一行拾錢

東京麻布區麻布西町十四番地
發行所　日本蠶業雜誌社

国立国会図書館　タイトル『一白團艸木画譜 2巻』　請求記号 特7-50
ガラス使用

特
5

日本唯一之園藝雜誌

明治廿二年四月創立

# 日本園藝會雜誌

第四拾參號

明治二拾六年六月二十五日發兌

〔明治廿二年二月廿三日內務省許可〕

## 目次

日本園藝論……一
日本百合花名詮……二
種の發生……六
水仙盆栽法……一〇
鳳仙花及瞿麥、芙蓉……一〇
柘榴の鉢植……一〇
虱害豫防並に驅除法……一一
蘭花鹽漬法……一一
越後國中魚沼郡種苗交換場景況……一一
種子分與……一二
百合根の害虫驅除法……一二
接木の術に付ての手當……一二
故齋藤兼光翁の傳……一三
菊虎驅除法……一四
植物肥料一覽表……一五

頁

カプシユール、ポール、ジャマン製造所

該カプシユール(蕾管ノ義)ハ農業葡萄栽培園藝果樹栽培上ノ寄生蟲驅除ニ供スル一切ノ藥劑ヲ含有スルモノニシテ佛國化學師ポール、ジャマン氏(Paul Jamain 19 Rue des Roses, Dijon, France)ノ製造ニ係ルモノナリ

MANUFACTURE
de Capsules Paul Jamain
Refnermant
tous les Insecticides destinés à combattre
les Parasites
de l'Agriculture, de la Viticulture,
de l'Horticulture et de l'Arboriculture
préparées par
*Paul Jamain*
CHIMISTE
19, rue des Roses, 19
DIJON(France).

右賣捌代價左表ノ如シ

| 名稱 | 廿五「グランム」ノモノ但シ五百個ニ付キ | 十「グランム」ノモノ但シ千個ニ付キ | 七「グランム」半ノモノ但シ千個ニ付キ | 五「グランム」ノモノ但シ千個ニ付キ | 二「グランム」半ノモノ但シ二千個ニ付キ | 一「グランム」ノモノ但シ二千個ニ付キ |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 硫化炭素 | 二一七、五〇(法仙) | 二一、〇〇 | 一九、〇〇 | 一七、〇〇 | 一八、〇〇 | …… |
| 石腦油 | 二五、〇〇 | 一九、〇〇 | 一七、五〇 | 一六、〇〇 | 一七、〇〇 | …… |
| 硫化炭素及石腦油 | 二六、〇〇 | 一九七五 | 一八、〇〇 | 一六、五〇 | 一七、五〇 | 一一、〇〇 |
| 安息油 | | | | | | |

又該カプシユールヲ土中ニ深入スルニ用ユル「パロー、ポール、ジャマン」ト稱スル器具ハ度ヲモリアルモノニシテ一個ノ價六法ナリ但シ荷造賃ハ別ニ申受ク

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50

ガラス使用

敬業社編輯所編纂


## ●新刊書籍發賣廣告●

中等教育

### 有機化學教科書

全一冊紙數二百七十九頁圖數個挿入定價六十錢郵稅四錢

理學士富士谷孝雄君述

世間有機化學書ノ類乏シカラズト雖或ハ浩瀚ニ過ギ或ハ省略ニ失シ能ク教科用書タルニ恥ヂザルモノ殆稀ナリ本社之ヲ患フルコト久シ今般當編輯所ニ於テ編纂セル本書ハ實ニ壽常師範學校ヲ始メトシ他ノ諸學校ノ教科用若クハ斯學ニ志スモノヽ參考用ニ供センガ爲特ニ編軸シタルモノニシテ其所揭順序ノ整然貫通セル其精簡宜シキヲ得タル各類圖間ノ關係ヲ最明瞭ニ解說セルコト等ニ於テ他ニ比類ナキ良書ナリ書中數十ノ實驗ヲ揭ゲ初學者ヲシテ實際的ノ觀念ヲ得取セシメントシ又譯語ノ下ニハ一々原語ヲ附シテ類似名稱ノ混迷ヲ避ケ併セテ他書ノ參考ニ便ナラシメタルガ如キ其用意ノ周到ナル其敎示ノ丁寧ナル本書獨特ノ能處タリ本社發兌ノ諸書普ク江湖ニ名聲ヲ博シタルニ由リテ以テ其ノ評ノ誤ラザルヲ知リ給フ可シ

所編纂同

### 普通天文學

全一冊紙數百三十五頁精密圖挿入定價金三十錢郵稅四錢

方今天文書ノ世ニ出ヅルモノ尙極テ稀ニシテ偶之有ルモ皐近ニシテ單ニ童蒙ノ爲ニスルニ非ザレバ深邃ニ過ギテ專門學上ノ外ハ殆ド會得シ能ハザルノ類ナリ今般本社出版ノ普通天文學ハ此ノ中間ニ位スルモノニシテ各天体運行ノ原因ヨリ其結果ニ及ホシ日月ノ蝕、金星ノ經過、氣候、潮汐、曆年、時刻等ノ如キ日常吾人ノ耳目ニ慣熟セルモノニ於テハ特ニ意ヲ用ヒテ說明シタルガ故ニ中等敎育ノ敎科用書トシテ適應セルノミナラズ天文上諸顯象ノ理由ヲ知ラント欲スル人士ノ爲ニ世間無比ノ好伴侶タリ

東京市神田區裏神保町一番地

發兌書肆

### 普通地文學

全二冊○第一卷定價金三拾五錢郵稅金四錢

○第二卷近刻

此書ハ富士谷先生カ獨乙協會學校、日本中學校ニ於テ敎授セラレタル講義ノ結果ナリ弊社先生ニ乞フテ今之ヲ發賣ス其尋常師範學校、中學校敎科書並ニ敎員參考書ニ適當ナルハ弊社ノ深ク信シテ疑ハザル所ナリ敢テ敎育家諸君ノ試ミアランコトヲ望ス

警視總監園田安賢君題字

司法次官清浦奎吾君題辭

田村秀雄編纂

### 袖珍警官必携

全一冊○定價金五拾錢郵稅金四錢

本書ハ主トシテ行政司法警察及監獄ニ關スル現行法令ヲ細大殆ド不洩分類蒐錄シタルモノニシテ其改正廢除ニ係ルモノハ一々愼密校訂ヲ遂殊ニ植字印刷ニハ嚴重注意ヲ加ヘ頃日漸ク印刷成ル現今警察監獄ニ奉職ノ諸氏ハ勿論巡査看守志願ノ諸君必携ノ書ナリ

文科大學敎授文學博士井上哲次郎先生著

### 敎育と宗教の衝突

全一冊○定價金三拾錢（郵稅共）

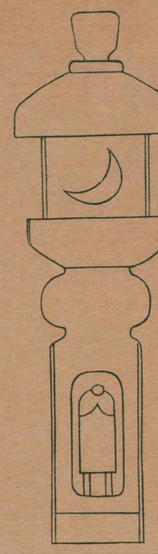
此書ハ敎育宗敎上重大ノ關係ヲ論ずるものにて今や世論之が爲めに紛然たり反對者は百方之を攻擊するも世人若し自ら此書を讀まば痛快激切必ず深く感發する所あらん是神官敎育家佛敎家基督敎家士官憂國の士等必讀の書也

電話番號二五八番

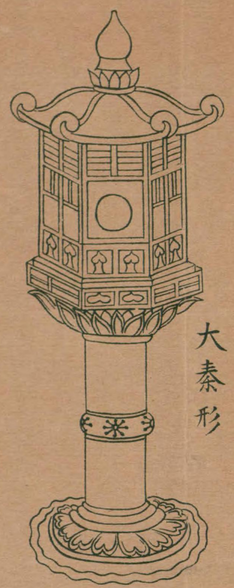
敬業社


日本園藝論附錄　名物燈籠

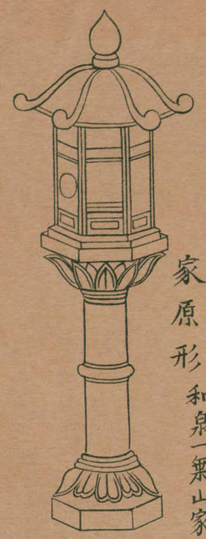
織部形



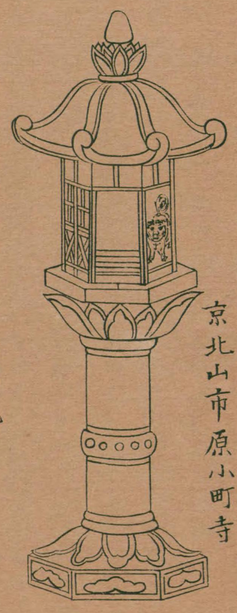
大秦形



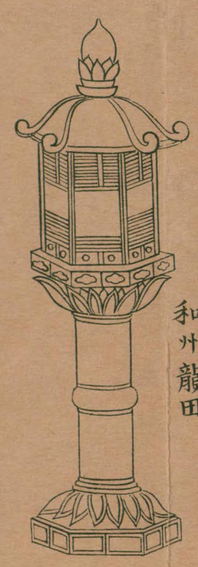
家原形　和泉一萊山家原寺



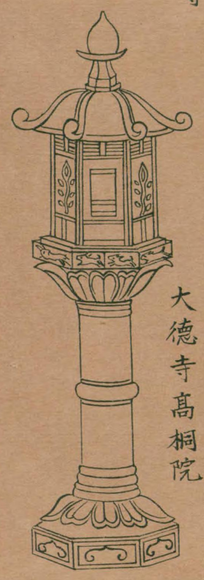
京北山市原小町寺



和州龍田



大德寺高桐院



## 日本園藝論

（承第四拾貳號）

橫井時冬

この外燈籠手水鉢垣の如き其種類多しと雖も今こゝには省きぬ何れも只裝飾のみならず實用を兼ねたるは茶家者流の識見といふべしことに垣の如きは西洋人の注意をひきたるものと見に一千八百八十二年出版 Dresser（ドレッサー）氏著 Japan（ジャパン） 及一千八百八十九年出版 Rein（レイン）氏著 The industries of Japan（インダストリース、オブ、ジャパン） に數種の垣を載せたり又井を堀りて庭の裝飾となすものあり現に織田有樂の如庵千家の殘月亭堀內家の長生菴皆井を用ゐられたり井は多く山家のさまを寫すに用ひ其さまいと面白しさて數寄屋式の庭はつとめて天然のありさまを寫すが故鎌倉式西洋式の如くこれといふ目だつ所ゐけれどもよく見るときは一株の木一箇の石心を用ゐざるといふことゝなし茶家者流にても未熟のものほどさま〴〵の數寄をゐして其本色を失ふことあれどもと茶博士と稱すべき人の好みたる庭はこれといふ目だつべき點ゐし予の京都に遊ふやはじめて千碌々齋宗匠を訪ひ其庭の一覽を乞ひたるにこれといふ數寄を用ゐずして水石の配置よろしきを得苔いと深く生ひたるさまはかの宗易が或人作庭の風景を問ひけるとき青苔日厚自無塵と答られしことをおもひやられぬこれ予が極めて稱賛する天然幽邃のありさまを寫したればあり（但し千家現今の建物庭作は天明燒失後啐啄齋了々齋吸江齋の三代にて再興せりといふ）桂離宮は小堀遠州が畢世の意匠を出したる御庭園にしてものかはりたる所多しとはいへ近世茶家者流がいたづらに奇を好みたる如きものにあらず其意匠いたる所趣を異にし限りなき深山幽谷に入りたるかと疑はしむ蓋し遠州の苦心したる所ゐるべし世にも好みたるやうなれど實際其所にいたりてみれば少しも奇ゐるものにあらず却て溪水の趣ゐるを覺も松浦伯蓬萊園中（東京下谷區向柳原にあり遠州江月の好む所）岩間の迫門とて三味線堀より水せき入るゝ口に石燈籠一臺をたてられたるは流れの手水の意匠と同じく遠州の絶技といはまほしきことゝありかし然るに近年園藝を好むもの動もすればいふ數寄屋式は規摸小にして作庭の標準となすに足らずとされど茶家者流ゐりと



国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

て強ち小庭のみに限るものにあらず桂離宮蓬萊園の如き何れも規模廣大にして木石の配置其所を得よく天然の風景を寫したるにあらずやこれを要するに其精巧の如何は作者其人の伎倆にあるのみ

（未完）

愛に添へたる燈籠の圖を參觀すべし

## 日本百合花名詮

（承第四拾貳號）

田代安定

### (八)ベニスヂユリ

學名 Lilium auratum, Lindl. Rubro-vittatum.

元産地○園藝品

略解○元ト「ヤマユリ」ヨリ出テタルモノニシテ便チ其一變種ニ屬ス今ハ各所ニ播布シテ百合花中著名ノ品種ト爲レリ花實莖葉一般ノ徴候「ヤマユリ」ト同一ニシテ只ダ花色ニ於テ差異ヲ見ルノミ乃チ此「ベニスヂ」ノ花ハ世人ノ知ル如ク「ヤマユリ」ノ花ト同狀ニシテ其各瓣内ニ鮮紅線暈アリテ艶美ノ觀ヲ呈ス尤モ百合花中ノ逸品ニシテ殊ニ海外諸邦ニ於テ普ク珍賞サルヽ所ナリ香氣ハ「ヤマユリ」ニ同シ

### (九)口紅（クチベニ）ユリ

學名 〃 auratum, Lindl. pictum.

元産地○園藝品

略解○前條ノ一種ニシテ花瓣ノ各邊端ニ紅色暈ヲ帶フルモノトス「ベニスヂ」ノ如ク確固ナル變種ト尚稱シ難シ此品ハ往々常ノ「ヤマユリ」中ニモ混生スルコトアリ是恰モ「ベニスヂ」ト「ヤマユリ」ノ中間ニ坐スルモノニシテ將ニ甲ヨリ乙ノ品種ニ移リ化セントスルモノト謂ヘキナリ

香氣ハ同前

### (十)白黄（ハクワウ）ユリ

學名 〃 auratum, virginale.

又 〃 〃 Wittei.

元産地○園藝品

略解○同ク「ヤマユリ」ノ一變種ニシテ其各瓣内ニ鮮黄縱道暈アリ但シ常ノ「ヤマユリ」ノ如ク星點ナシ此品ハ「ベニスヂ」ト共ニ内外一般ノ園藝家ニ珍賞サルヽ所ナリ

### (十一)白星（シロボシ）白黄

學名 〃 auratum, virginale album.

元産地○園藝品

略解○白黄ノ一種トシテ稱セラルヽモノニシテ其白地ノ瓣ニ淺黄色ノ縱道暈アリ「ヤマユリ」ノ如ク細星點滿布スレトモ色ヲ帶ヒス故ニ「白ボシ」ノ名アリ此品モ往々「ヤマユリ」中ニ混生スルコトアリ香氣ハ「ヤマユリ」ト同シ

### (十二)カノコユリ（一名唐（タウ）ユリ（長崎縣下））

學名 〃 Speciosum, Thunb.

元産地○支那

略解○古來日本全國ニテ普ク園養スル所ニシテ支那ノ元産品タルハ論ヲ俟タス歐人ノ著書亦之ヲ證明スルモノ尠カラス本邦山野ニ於テモ往々目擊スルコアリ然レトモ余ハ之ヲ純然タル自生品トシテ披露スルヲ欲セス尚一ノ疑團ヲ存セリ但シ四國山中ニハ自生アリトノ説アリ支那ニテハ中帶ノ氣候ト暖熱帶ノ間ニ於テ其元産地ヲ表示シアレハ我カ四國ハ其地位上ヨリ推シテモ或ハ自生一部分中ニ居ルモノカ尚其是非ヲ判シ難シ又沖繩縣下先島ノ如キニ於テモ往々自然生ノ狀ヲ爲スモノヲ目擊スルコトアリ然レトモ該島ノモノハ眞ニ自生ニアラザルベシト思ヘリ「カノコユリ」ハ根球巨大ニシテ猶「ヤマユリ」ニ於ケルガ如ク往々一尺圍ニ及フモノアリ鱗片粗厚ニシテ深黄色ヲ帶フルヲ此種ノ殊徴トシ苦味強クシテ食用ニ適セス即チ「テツポウユリ」一名「琉球ユリ」ト共ニ澱粉用ニ充ツヘキモノナリ

莖高サ二三尺ニ達ス葉濶披針狀若クハ卵圓狀ヲ爲シ肥厚ニシテ塗ルガ如キ光澤アリ花ハ卷丹（オニユリ）ノ如ク瓣反卷シ淡紅色ニシテ全面紫紅細點散布シ尤モ艶美ナル纈紋ヲ爲ス故ニ「カノコユリ」ノ名アリ此種ハ花ニ香氣ナシ

一種「マルバカノコ」ト唱フル品アリ其葉尋常ノ品ヨリ短圓ニシテ倒卵形ヲ爲シ瓣内ノ紅暈濃厚ニシテ常品ニ比スレハ更ニ幾等ノ美觀ヲ添フ故ニ其評價モ隨テ貴フシテ園藝家ハ之ヲ別種類ノモノト爲セトモ必竟「カノコユリ」タルヲ離レス亦タ近來歐洲園藝家栽培上ノ操作ニ因リテ此「カノコユリ」ニ數多ノ變異品ヲ生セシメ種々ノ形容名稱ヲ添附スルアリ

「カノコユリ」ハ往年「シーボルト」氏ノ日本ヨリ初メテ歐洲ニ携帶セシ際ハ非常ノ市價ヲ博取シ一時頗ル著名ナリ





国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

ラ鳥娜ノ姿ヲ具シ花ニ香氣ナシト雖トモ濃艶愛スベキノ風致ニ富メリ宜ナル哉花戸ニテ「小チニユリ」ナル殺風景ノ名ヲ避ケ「赤平戸」ノ名ヲ以テスルヲ又「チニユリ」ハ其莖葉腋ニ紫黒球子ヲ着クルモ該種ハ莖淡綠色ニシテ珠子ヲ着ケサルヲ以テ容易ニ彼ト判別スルヲ得ヘシ

此種ハ關東地方ニテハ單ニ其花ヲ觀賞用ニ供スルニ止マレドモ九州地方殊ニ鹿兒島縣等ニテハ專ラ其根塊ヲ食品ニ充テリ根ハ「チニユリ」ヨリ遙ニ細小ニシテ雪白色ヲ爲シ味頗ル佳良ニシテ最モ菜用ニ適シ農家ニテハ猶彼ノ「ジヤカタライモ」等ニ於ケルガ如キ場合ニ用ユル地方アリ故ニ動モスレハ其近郊ニアルモノハ遍ク堀採シ盡クスニ至ルコトアリ

(六)黄ヒラド

學名　〃　Leichtlini, Cl. lutea.

元産地○未詳

略解○予ハ未タ此百合ニ就テ詳査ヲ遂ケスト雖トモ植物學上一般ノ徴候ニ於テハ前條ノ「小チニユリ」ト大差ナキノミナラス即其一變種ニ收ムヘキモノヽ如シ單ニ平戸ユリト云フハ主トシテ此品ニ當リ亦特ニ「黄ヒラド」ノ名ヲ冠シテ右ノ「赤ヒラド」ト分チ八ヲシテ輒チ長崎縣下平戸島ノ元産品タルヘキ想像ヲ懷カシムト雖モ實際上ニ於テハ然ルニアラス此百合ニ對シテ「平戸ユリ」ノ名ヲ保タシムルハ猶彼ノ「博多ユリ」ニ於ケルカコトク是ハ花戸間ノ襲用名稱タルコトヲ了悟スベキナリ而シテ實地ニ就テ撿スレハ平戸地方ニ於テハ此百合ヲ栽培スル者寡キハ勿論其實物ヲモ殆ント辨知セサル程ノコトナリ

莖葉花瓣ノ形態ハ略ホ「赤ヒラド」ト一般但ダ該品ハ概シテ葉纖細ニシテ少シク撚レル氣味アルヲ其常徴トシ花ハ鮮黄色ニシテ同ク細點滿布シテ瓣頭反卷シ鳥娜タル風姿愛スルニ餘リアルモ惜カナ香氣ノ賞スヘキナキヲ平戸ユリノ缺點ト爲ス

（未完）

## 種の發生

津田仙

滿場の諸君、私は今日此處へ參りましたか演説をする積りでありませんだ、然る處只今花房會長から何か話をするやうにと云ふをで御座りまして、別段何も考へて居るをも無ら、去りゝがら其責を塞ぐ爲め、今福羽さんが面白い御演説をなさる前座に種の發生と云ふをに就て、少し御話をしやふと思ひます、どうか左樣御承知を願ひます

で最う追々と是から種を播付ける時節となりますするが、全躰此種と云ふものは、水氣と温氣と此二ッがありましたるらば縱令闇い處でありましても能く發生するものであります處で其種を播付けるに、種類に依つて色々其播く手當の仕方がある、先づ夏土用時分位迄に實の入る種は直ぐ其年に播くと宜い又遲くなつて即ち秋に入つて熟するものは、其年に播かず翌年に播くが宜い、而して種類に依つては、發生し難いものがある、ソレハどう云ふものかと云へば、皮の堅い物である、又直く發生し易いものもあります、葱（ネギ）の種抔は極々發生し易いものだが時によると葱種を播ても生へないをがある、夫は外ではない、已に種が濕氣を受け一度發芽し枯れて居るからである、能くあるとです、葱種を買つた、買つたは宜いが濕氣ある處に貯て置く、已に發芽して枯たのを知らず播き、肝腎播いた時に生へないをがあるです、そこで葱種は今年獲たのは翌年播くが宜いが葱の種のよしあしを試驗して後播種するが宜い此試驗する方法は種を少し取出しフラネルの加き切（キレ）を濕し之に包み懷中するか又は火鉢の引出しの如き温暖ある所に一日も置く時は萌出る者にして是れはよき種たれども若し萌出されば既に枯死したる種である茄子（ナスビ）種の如きは年を經ても能く發生する物故反つて二三年經たのを播けば早熟とゝつて宜い、夫れから又種の貯へ方宜しきを得れば、縱令幾年を經るも發生する一二の例を述べんに曾て埃及土國にて木乃伊（ミイラ）と云ふ人体の腐らぬ樣に爲したるを砂中より掘出したるをがあつた、其衣服より考ふるに凡三千年前に地中に埋つたものゝるべし其を堀出したる人の其當時の麥種を持て居つた、依つて其麥種を英吉利の博物館に送り博物館では其種が發生するや否やを試みる爲め播いた、然る處果して發生した、是は畢竟宜い臨梅に濕氣に逢はず存して居たからである、濕氣に逢ひさへせねば此の如く三千年前の古い種でも生へる能き證據の一とゝりました今一ッ種の長く保つ例を御話すれば、ニウゼーランドに一種の木があり其葉は能く松に似て居る木です、其木は實に妙なので、實が其木の皮の間に介まり幾年でも持つて居るのです、木の幹の皮の間に實が介まつて、其實





国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

の介まりし年數を下から數へると、是は幾年經つたのだと云ふことが分る、段々下から數へると、或は五百年六百年若くは千年經つたのがある、試みに其實を採つて播くと能く生へると申します、夫れから又種によりましては凍らせるが宜い、即ち桃、梅又は李の種抔である、爾う云ふ堅い殻のある種は寒中家の外に出して凍らせる、然る時は種が割れる、夫を播くです、能く生へます、私の社に近來米國より梨子の種の注文がある、一昨年も昨年も澤山輸出しました、然る所一月迄に亞米利加に送ると受取ますが、二月にあると最う取らないです、そこでどう云ふ譯か、一躰梨種を播くは八十八夜迄は宜いから之れを砧木として彼の國の梨を接く時は甚よき結果であります、又種子を採つて播くと能く生へる事は幾千斤あるを知らず私の方でも唯一人の種苗商人より三千注文を受けて出しました一斤にて三千本位出來るとして十斤で三萬本、百斤で三十萬本、千斤で三百萬本、一萬斤で三千萬本、斯樣ある勘定ですが、是迄は佛蘭西から亞米利加に往つて居つた、處が佛蘭西の種は迚も日本の品に及ばぬと云ふので、今では日本から大に輸出します、夫れから又種を播き土を覆ふに、どの位土を覆ふが宜いかと云ふと、果物の種に依りて異ある、去りながら大概果物の種の丈だけ土を覆へば宜い、即ち長さ一分の核ならば、土を一分かければ宜い、處て細小い種にあると、其種の丈だけ土をかけるとか六ケ敷い、爾う云ふのはどふするかと云ふと、例へば彼の加密列……感冒藥に使ふ極く細かい種の野菊此カミツレ又は草牡丹の如き罌粟種よりも小さき故に土を種丈覆ふとが出來ぬ、亦爾う云ふのは土をかけては大概生へぬ、そこで爾う云ふのは、唯〻自然に土に交つて……もくらせるやふにすればよく萌出れ共若し播種し土をかければ發生の惡しき故に種を播きたる時は唯〻藁で其土を覆ふて日光を遮ぎる迄に止めるであります、左すれば種はよく〳〵發生します、彼の高野槇です、私か嘗て取寄せて播いたら一本も生へなんだ、爾うかと思ふと高野槇の下に往つて見ると澤山生へて居る、高野の山抔ではほつたらかしてあつて、能く生へて居る、爾う云ふ樣なもので、斯る種は普通の種を播くやふては生へぬ、又石の上に水苔を置て其内に種を下し日光を覆ひ置く時はよく萌出る者あり、夫れから又桑の種抔を播きますに、是亦唯々播きますと發生かよくない、前にある如く土の唯多くかゝり過る譯で御座ります故是は桑の種に灰をまぶつて容を多くし、夫れを古い繩にこすり付け、而して其の繩を畑に持ち往き繩が見へなくなる位に土を覆ふのです……繩の置き工合は畑の都合にもよるが縱に置くと宜い……斯くすれはよく種も平均に生へ出るあり、又アカシヤ或はサイカチと云ふやうある種は中々生へぬ、是は播いて一年經つた位では生へぬ、二三年も經たるかければあらぬそこで爾う云ふ種には熱湯を注くかよい、即ち斯う云ふ器物に入れ（水呑を指す）七八分間熱湯に浸ける、爾うするとパチ〳〵音がする、一夜置くと膨れて容が倍にある、夫れを播きますに暖かい時あらば、二三日も經て發芽する、若し一旦熱湯を注いでも膨れない時は、復其れを沸湯せしめて之を注き膨れたるのみを撰出す而して膨れないのがあれば水を捨てゝ又た新に熱湯を注げば最早膨れぬ何故と云ふにポッタースを去る故である此時木灰を入れて熱湯を注く時は皆膨れる、此膨れるのはポッタースがあるからである、左すれば種はよく〳〵發生します、彼の高野槇です、私か嘗て取寄せて播いたら一本も生へなんだ、爾うかと思ふと高野槇の下に往つて見ると澤山生へて居る、高野の山抔ではほつたらかしてあつて、能く生へて居る、爾う云ふ樣なもので、斯る種は普通の種を播くやふては生へぬ、又石の上に水苔を置て其内に種を下し日光を覆ひ置く時はよく萌出る者あり、夫れから又桑の種抔を播きますに、是亦唯々播きますと發生かよくない、前にある如く土の唯多くかゝり過る譯で御座ります故是は桑の種に灰をまぶつて容を多くし、夫れを古い繩にこすり付け、而して其の繩を畑に持ち往き繩が見へなくなる位に土を覆ふのです……繩の置き工合は畑の都合にもよるが縱に置くと宜い……斯くすれはよく種も平均に生へ出るあり、又アカシヤ或はサイカチと云ふやうある種は中々生へぬ、是は播いて一年經つた位では生へぬ、二三年も經たるかければあらぬそこで爾う云ふ種には熱湯を注くかよい、即ち斯う云ふ器物に入れ（水呑を指す）七八分間熱湯に浸ける、爾うするとパチ〳〵音がする、一夜置くと膨れて容が倍にある、夫れを播きますに暖かい時あらば、二三日も經







国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

の養分となり、牛の糞と共に出るのは、已に油氣は除いて居るから、其種は能く水氣を含む、そこで其牛の糞を持つて往つて播く時は直く生へる、ムクエノキの實（み）を鳥が食ひ、一旦其腹を通つて夫が能く生へる、漆の實も鳥が食ひ、自づと鳥があつこち播くに相違無いが、是は牛に食はして夫を播くが都合が宜ひ、又色々動物が種を播くをがあります、動物が種播きをすると云ふと可笑しが、北海道で牛房に野生の立派のがある、能く能く出來で居る、人家近所は皆堀取る故に牛房の種を播がざれば盡て仕舞ふ譯なるに年々能く自然に發生するはどういふものかと云ふと、即ち馬や牛か播くからである、どふして馬や牛が播くか、外ではない、牛房のある所を馬や牛が通り、種が其尾に着いて往く、夫を馬や牛がそこらあたりに播きつけるのである（大笑）是の如く動物が獨りで種播をやるです、先づ斯樣な事で、今日は此位にして措きます

## 水仙盆栽法

加集一鳥

水仙ハ單瓣、重瓣、青色、紅色、純黄、及金盞銀臺等ノ各種アリテ晩冬初春ノ候ニ於テ文人墨客ノ最モ愛賞スル處ナレモ之ヲ盆栽トナスニハ葉莖長大ニ過キテ姿勢ノ締リナキヲ憾ミトス今之ヲ防キ强壯短矮ニシテ趣キノ面白キモノヲ得ントスルニハ盛夏ノ候此根ヲ堀取リ球根ノ最大ナルモノヲ撰ミ古籠ニ盛リ（小ナルモノハ花ヲ發セス）人尿ト河水ト等分ニ混合セシモノニ浸シ一二日間炎日ニ暴（サラ）シタル後其儘樹蔭ニ貯ヘ置キ初冬ノ頃之ヲ水盆ニ盛リ又ハ肥氣ナキ砂上ニ淺ク植ユレハ（球根ノ九分迄露出スル程）直ニ多クノ白根ヲ生シ最モ短矮ニシテ强壯ナル葉莖ヲ抽テ僅カニ二三寸ノ高サニテ花ヲ開クヘシ是レ予ガ年來實撿スル處ニシテ一回モ失敗セシヿナシ但シ温室ヲ置キ微温湯ニテ培養シ花期ヲ催進スルハ人々ノ工夫ニアルヘシ

## 鳳仙花及瞿麥（ナデシコ）、芙容（フヨウ）

半藤逸我

三種の愛觀花を特別大輪に咲するには何れも今に莟催なき内に胡桃（クルミ）の売を燒きたる灰を根元に充分施す時は別段花艶を增す又花莖强く散る日數命長くして尤も澤山に咲なり又菊及菖蒲等にも多少有効なり

## 柘榴の鉢植

柘榴を鉢植にて結果せしめんには能くその仝鉢中に小石を埋入せらるゝも決して効なかるへし私は該鉢中に輕石（カルイシ）と炭の兩品を石臼にて搗荒き粗粉に製し之れに骨粉半を調合せし物三合家屋椽下の土七合の割合にて植込なり年々好結果を見るを妙なり諸君試みあらんをを

## 虱害豫防並に驅除法

仝

佛手柑柑子（ブッシュカンカウジ）、金柑（キンカン）抔の虱害を豫防並に驅除せんには普通玉蜀（タウモロ）黍（コシ）を煎（イ）りたるを粉にせし物を施し別に石油製売を少し施し別に煙草の莖を煎じたる液を時々施すべし腐敗水を施すなかれ

## 蘭花鹽漬法

仝

我北越地方の天然産物の一なる春蘭の變生類珍奇品の近年他府縣へ輸出する物尤も夥多數あるが中にも植木師の競受する品は墨流　虎班（トラフ）　燕尾葉（エンビハ）　花筏（ハナイカダ）　甲龍（カフリヨウ）　鷹班（タカクマ）　竹根（チクネ）　銀履輪（ギンフクリン）　白、黄、紺履輪（フクリン）及爪履輪（ツマ）　子持縞（コモチジマ）、太白、黄鼠等の類にして鈴咲及黄花本紫色朱莖等之

又近年大流行の蘭花漬の法種々あるも何れも夏土用后には多少腐敗に害せられ櫻湯の如くならざるなし然るに愚生此漬方に百般盡力して數年經驗を積たる極簡便無類の貯藏法は左に蘭花莖とも惣貫一〆目食鹽七合川砂三合の割合を以て漬込其上部に根笹の葉を蓋し小石を數個重ね壓置くべし數月間を過くるも腐敗せず

## 越後國中魚沼郡種苗交換場ノ景況

仝

本月四日五日の兩日十日町三ノ丁に於て郡農會の種苗交換場開きたり擔當委員は春期農會通常會の撰擧に依り半藤逸我、樋熊松造、星名桂太郎の三氏幹事長郡書記岩澤茂吉氏並に書記補助員等は前日より出張場の内外陳列品配置に盡力せり三府諸縣より特用産物園養品等員數百以上にして尤も盛會なり爲に出品物は悉皆賣却し盡したり中にも越佐農友會長山崎三太郎氏の出品夢なし豌豆の種、長岡千年町種物商米三の出品草花各種東京三田育種場より取り寄せたる各種、地方幹事半藤逸我出品の蕣豆（アサガホマミ）及糸瓜、地方幹事上村定造出品の落花生外四品、地方幹事長澤音吉の出品の種等は皆好評を博せり朝來信上境の村落並に頸城郡接村刈羽郡地方より五七聯連陸續該場へ種苗購求方に出掛たれば其雜踏一方ならず只に立錐の余地なき有樣なり全國篤農家よりの贈送品には一々票札を添へ后三十五名の試作員に配分せり五日午后五時二十分郡長並河一氏郡書記瀧澤保一野村信敎の二氏並に大地主等臨席の上閉



国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50　ガラス使用

場を擧行して演說數番あり美々敢盛會ありし夜に入り委員會議を開き明年開設の條項に大改正をゑし六日郡役所へ出頭郡長及勸業掛成田、岩澤の兩氏に面會數刻縷々其意見を陳述して散所せり、不幸にして大雪の爲め種物のみにして苗物は今に貳尺以上又は場所に依り三四尺雪の下に埋沒せり植木師の他苗物一品も出品なし目下殘雪水晶の如くゐるを以て鎗鋤鍬にて堀割最中なり

## 牽牛種子分與

牽牛五十余種あり要望諸君は郵券十錢を送らるれは直に郵送すべし牡丹咲、台咲亂菊咲、六曜桔梗咲、狂咲等あり盆栽又は籬となし夏秋の美觀ゐり

淡路國三原郡賀集村　賀集一鳥

## 百合根の室蟲驅除法

半藤逸我

百合の蕾に色現れんとする頃よりして玉根に害虫を發生し其葉色は黃班に變し莖追々皺縮のたて縞にして節高く勢分を落し花形完全ならさるゐり然る時は迅速該根元周圍を直徑六寸位に丸形に堀り此穴の中へ煙草の粉一匁弱石灰五勺硫黃以上三種を混和せし物を百合十株の根元に施し前に堀り上けたる土を除き他の熟土を詰込べし又石鹼水に煤少く調合して根元に施すも効有り

## 接木の術に付ての手當

全

該法に付余多年間實驗し異常の好結果を得たる接木の法を貴誌に投じて全國養樹家の參考に供せんとす幸ひ最早接木の好時期ゐればゐり即ち梅、海棠、櫻、木蘭、杜鵑花、茶山花、牡丹、葵竹桃　桃、松、百日紅等は勿論灌木等何れも接木に適當せる物の簡易ゐる手當にして聯合接術を除くの外は割接、皮接、斜接、紛接、門接、毛拔、撚り接、矢筈接、栓接、節接、蝶番接、裂合接、鮪接等其仕方は何れにもせよ是れを爲すに付いて豫じめ其の手當を行ひ置くにあらざれは好結果を見る事かたし扨て手當と云ふは別に六ヶ敷事にあらず先づ接木を行なはんと欲せば其の接かんとする木の善惡ゐる質を撰擇して兩三日前に切り採り之れを土中若くは箱又は桶等に川砂を充分入れ其砂中へ接穗を埋めたる上部へ澤山砂を蓋に詰込み極少々上部より清水を撒布すべし而して之を接く相當の日は尤晴天を可とす別に大根を山葵卸を以て摺り該大根の絞り液を筆又は羽刷抔の柔らかき物にて接穗全部を塗るを宜しとす而して其母樹即ち砧木には接術せんとする當日凡一週間前樹質に應じ相當せる肥料を施し置くを要す接所には從來竹の皮或は油紙の古物抔を以て卷く例多きも實際上普通の萬年青の生葉を用もる方効用多し又樹の大少に區別あれ共目接を結ぶ物は麻苧より藥の葉を能く石般上にて打たる物及藤蔓を同樣打たる物か又は茗荷の莖筋糸を用ふる方宜し而して其季節は大低春彼岸より清明即ち四月五日前后を可とするも其樹質種類により月日季候の異ゐるも松樅抔は二月、梅海棠等は三月、櫻、桃、杏の類は四月上旬柑類は仝月穀雨前、木槿の類は五月十三四日頃椿、山茶花等然るも我國は全國第一の雪國にして寒氣強く霜降の害ある爲に接木の早晩異違の多少ゐり又藥種類を用ふるものは多くは晒蠟、靈天蓋、豕及能油、魚膠、雞卵脂等ゐりしも今は十中八九藥品を用ひすして素接の大流行せり

## 故花友齋藤兼光翁ノ略傳

久永章武

翁性ハ齋藤名ハ庄十郎花友ト號ス文化八年六月六日江戸四ツ谷大番町ニ生ル三歳ノ時不幸ニモ父母ヲ失ヒ祖母ノ手ニ成長ス幼年ニシテ父ノ跡ヲ繼キ家祿十五俵一人扶持ヲ賜ヲ幼ヨリ他童ニ比類ナシ文政十一年十九歳ノ時幕府御賄方ヲ申付ラル近郷近村ヘ採藥數回日光ヘ採藥ス當時本草大家皆交ハラサルハナシ就中栗本北村吉田大澗ノ諸先生ノ如キハ別テ愛顧ヲ受シト云フ亦植物ノ採集培養ニ妙技ヲ得ルニヨリ松平菖翁君外山公其他貴顯ニ交際ス天保四年小石川壹町鼠坂上木村某ノ邸内ニ移轉シ千餘坪ヲ借受ケ益ゝ珍草奇木ヲ蒐集シ培養ヲ勉ムル松平君外山モ一覽ニ臨シコトアリ實ニ名譽ト云フヘシ其頃ノ植物家ハ齋藤ハ珍物家ト傳稱シ陸續一覽ヲ乞モノアリ素ヨリ利潤ノ爲ニ蕃殖ヲ圖ルニアラズ同好共ノ望ニ應シ植物ヲ愛スルヿ他童ニ比類ナシ文政十一年十九歳ノ時幕府御賄方ヲ申付ラル近郷近村ヘ採藥數回日光ヘ採藥ス當時本草大家皆交ハラサルハナシ就中栗本北村吉田大澗ノ諸先生ノ如キハ別テ愛顧ヲ受シト云フ亦植物ノ採集培養ニ妙技ヲ得ルニヨリ松平菖翁君外山公其他貴顯ニ交際ス天保四年小石川壹町鼠坂上木村某ノ邸内ニ移轉シ千餘坪ヲ借受ケ益ゝ珍草奇木ヲ蒐集シ培養ヲ勉ムル松平君外山モ一覽ニ臨シコトアリ實ニ名譽ト云フヘシ其頃ノ植物家ハ齋藤ハ珍物家ト傳稱シ陸續一覽ヲ乞モノアリ素ヨリ利潤ノ爲ニ蕃殖ヲ圖ルニアラズ同好共ノ望ニ應シ分與シ又ハ交換シ種類ヲ集ムルヲ以テ一大娯樂トナセリ天保七年同所御賄組屋敷ヘ轉住シ尚一層培養シ博ク草木ヲ集メタリ翁ハ白花ヲ好ミ草木植物純白花ノミ百品ヲ擇拔シテ悉ク之レヲ寫生シ又實物ハ園内ニ栽エタリ故ニ園ヲ百白圃ト稱ス後栗本先生ハ一百圃ト呼フ方穩ナリト諭セリ故ニ一百圃ト改稱セリ又寫生ノ圖書ハ一百畵譜ト名ケテ之レヲ最愛セリ明治ノ初年幕府大政ヲ返還スルノ際翁直ヲニ靜岡藩ヲ出願シ藩籍ニ列ス然レモ當時翁ハ天障院殿ノ花畑御用勤務中ナルヲ以テ赤坂紀州家の邸内ニ寓シ通勤セリ明治三年十二月職ヲ辭シ家族






国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

ヲ伴ヒ同月十五日東京ヲ出發シ藩地遠江國佐野郡掛川在原川村ヘ赴ク（此際珍草ハ自ラ携ヘ旅行セシト）藩地靜岡ニテ五人扶持ヲ給セラル明治四年名ヲ兼光ト改ム移住后ハ專ラ山野ヲ跋渉シ草木ヲ採集シ栽培セリ翁ノ歩行スルヤ必ズ花枝ヲ携フ故ニ村童ハ翁ヲ見テ花ノ御老父ト云ヒ合ヘリ且原川村近傍ニハ植木鉢等ナシ故ニ鉢植物ニ困却ヲ感ジ同郡澤田村瓦燒職ニ囑シ三角形角形石臺形大小數百ヲ造ラシム鉢ノ表面ニ一百圃ノ三字アリテ風致ヲ含メリ明治九年四月養嗣子兼盛氏ニ家督ヲ讓リ隱居シ同年六月掛川宿ヘ移ル十一年三月掛川農學社創立ノ際ハ植物蒐集或ハ名稱等ニ大ニ力ヲ盡シタリト云フ同年七月上京ス此時モ珍草木及白藤クマノカシ（東京ニ少キ故）其他ヲ自ラ携ヘ旅行シ小石川區音羽町ノ邸宅ニ著ス此ニ於テ尙培養怠ルヿナシ且性宿健ナレバ炎々タル夏月ノ日中又凜烈タル冬月ノ朝ト雖モ更ニ厭フヿナク植物熱心家ヲ訪問シ種子又ハ分根ヲ分與シ仔細ニ其栽培法ヲ敎ユ又翁ハ珍草異木ヲ最愛スト雖モ熱望者ヨリ分與ヲ乞フ時ハ心ヨク諾シテ與フ（何レモ無代價）殊ニ內國產山草ハ繼續ヲ計リ頗ル力ヲ盡セリ故ニ好事家ハ見聞ヲ擴メ花戸即チ實業家ノ利潤ヲ得ルヿ實ニ僅少ナラズ近世栽培熱心家ノ一奇人ナリ明治廿四年小石川區武島町ニ移轉ス齡已ニ八十一然レ𪜈壯健ニシテ車ヲ要セズ東奔西走奇品ヲ探ルヲ樂トセリ又翁ニ質問ヲ乞モノ日々訪問者多ク爲ニ終日多忙ナリシガ昨年十二月中ヨリ病ニ罹リ療養ヲ盡セシニ藥石其効ヲ奏セズ惜ムベシ本年三月廿一日八十三歲ニテ黃泉ノ客トナル法號ヲ花岳友遊信士ト云ヒ小石川區茗荷谷町明照寺ニ葬ル嗚呼悲ヒカナ植物培養家ノ一大不幸ト云フベシ

## 菊虎（キクスイ）驅除法

半藤逸我

近年我縣下市町村到る所として菊花競會ゐる品評會共進會及角力會等年一年に流行し爲めに菊培養の盛んにして相互に美花美葉を以て丹精の功を誇らんとて種變化品を或は接き或は挿し又は實蒔して改良を試むる事多きも該培養の大敵ゐる菊虎（キクスイ）に害せらるもの多し然るに之れを除くの法種々樣々あるが皆尋常一樣の法にして中々良結果を得難き事は同好者諸君の知り給ふ處ゐり然るに余は今を去る四年前五月十四日朝より連朝菊園に就きて充分ゐる良結果を得たれば其實驗を早くも好愛の士に報し相共に菊虎の害を免かれしに今は最早虫害に罹るもの絕てゐし然れ共宇宙の廣き余の方法を聞洩らしたもふ諸君に貴誌の餘白を借りて報せんとす扨て菊虎は日中には沒して菊に留るをゐし日西山に傾く頃を期として新芽葉二三枚下部の莖を嚙廻（カミマワ）り菊莖の皮の發育液を吸ふゐり而して夜間は其心葉を捲（マ）きて該中に隱（カク）れ尻（シリ）を上の方に向け頭を下に向け眠り居るゐり此虫は朝露の未だ菊葉を乾き去らざる間は出でず旭の當るを待ちて始て飛交ふゐり故に早朝未だ日の昇らざる內に菊園を見廻りて一々之を捕へ土中に埋沒し又は火に投して燒殺すへし此法は極々手輕き妙法にして該虫は其數至て少ゐき物ゆゑ凡そ一畝步位の圃にても四五朝續けて此法を執行すれは大概は取り盡すものゐり而して該虫は決して他の草木を害せず菊の外ハゴロモサウ（方言鋸草（ノコギリクザ））を能く好み菊より一層鋸草を害し爲めに菊畑の近接に一株植置く時は此草にのみ集り菊に寄るを少ゐしハゴロモサウは夏より秋へ掛け美花を開き其初花を切り採（ト）りし後は尙三四の芽を生して繁茂せり開花日數尤長き花にして咲始め本緋色ゐるも凡十日程過ると薄桃色に變し尙四五日にして白紫に化するも花の散るをゐし該草は埔して不殘發芽す





## 植物肥料一覽略表

越後中魚沼郡農會幹事兼種苗交換場擔當委員　半藤逸我

○ハ窒素質ニ富ムヲ示ス　●ハ燐酸質ニ富ムヲ示ス△ハ加里質ニ富ムヲ示ス

○動物質肥料

| 品名 | 含有スル物質 | 分拆シタル標品乾濕ノ模樣 |
|---|---|---|
| 古鯡粕 | ○稍●ヲ含ム | 乾キタルモノ |
| 新鯡粕 | ○仝 | 仝 |
| 鯡笹目 | ○仝 | 仝 |
| 數ノ子 | ○ | 仝 |
| 蠶蛹 | ○ | 十分乾キタルモノ |
| 浮子粕 | ○ | 乾キタルモノ |
| 鰛搾粕 | ○稍●ヲ含ム | 仝 |
| 干鰛 | ○仝 | 仝 |
| 干蟹 | ○仝 | 仝 |
| 干蝦 | ○仝 | 仝 |
| 鰛鱗 | ○仝 | 仝 |
| 平子鰛 | ○仝 | 仝 |



国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

人糞　○　汲取りタル儘　全
人尿　○　全　水ヲ混セサル新鮮ノモノ
牛血　何レニモ偏セス稍○ニ富ム　全
鷄糞　○　乾キタルモノ
蠶渣　○　粗糠并ニ桑葉ヲ混シタル物
馬糞　○　廐ヨリ取リタル物
牛糞　○　全
豚糞　○　小屋ヨリ取リタルモノ
牛尿　○　溜ヨリ汲取リシモノ
馬尿　○　全
豚尿　○　全
牛糞尿　○　糞尿共ニ混シタルモノ
馬糞所　○　全
豚糞尿　○　最モ新キモノ
廐肥　何レニモ偏セス稍○ニ富ム　全
廐堆肥　全　最モ腐敗セシモノ

○雜肥料

木灰落葉　△稍〇ヲ含ム　十分乾キタル物
紫雲英　○　十分乾キタルモノ
稻藁　○　全
山毛欅葉　○　青葉ノ儘
米糠　稍〇ヲ含ム　十分乾キタルモノ
小麥皺　○　全
大麥皺　○　全
磨擦米糖　○　全
大豆　○　乾キタルモノ
蚕豆　○　全
蔓藻　○　十分乾キタルモノ
平藻　○　全

○搾粕類

大豆油粕　○　十分乾キタルモノ
綿子粕　○　全
菜種油粕　○　全
荏油粕　○　湿氣ヲ帶ヒ柔カナルモノ
酒酘粕　○　十分乾キタル物
飴粕　○　醬油粕　全
藍粕　全
蠶蛹搾　全

△全上　松杉檜等ノ灰　全
何レニモ偏セス稍○ニ富ム　十分乾キタル　全

○骨質肥料

骨粉　●　乾キタルモノ　全
市街雜魚骨　●　全
鰮骨　●　全
骨炭　●　全
骨炭　●　全
骨灰　●　全
骨灰製　●　全
骨炭製　●　全
燐礦製　●　全
三井物産會社製　●　全
大坂川口人造肥料會社製　●　全

人造肥料即チ過燐酸石灰

植物質肥料

青草雜刈　○　刈取リシ儘





国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50
ガラス使用

百合根其他諸植物類現金にて買入れ新奇植物は高價に申受べし

横濱本町通長崎町居留地百番

アイザック、バンチング

SEEDS, PLANTS, TREES

BULBS, ETC.

For 50 cents.

We'll send 10 choice, Japanese Flower or Vegetable Sample Seeds.

THE TOKYO PLANT SEED Co.

5 TAMEIKE, AKASAKA, TOKYO.

東京興農園種苗店

東京赤坂區溜池町五番地


一本誌ハ毎月一回廿五日ヲ以テ發行ス

一本誌代價廣告料等郵便爲替ニテ送附スルトキハ東京神田區一ッ橋通郵便爲替取扱所ヘ向ケ拂込アルヘシ

一問合ハ返信用郵券封入又ハ往復端書ヲ以テセラルヽノ外ハ返信セス

一本誌ノ爲メノ論說記事ニ限リ東京飯田町六丁目八番地吉田進ヘ宛テ送附アルヘシ

○本誌定價壹部金拾錢●一時ニ數部ヲ購求セラルヽモ割引ヲナサス

○廣告料壹行金七錢（但前金）


明治廿六年六月廿四日印刷

仝　年六月廿五日發行

編輯兼發行者　東京市麹町區飯田町六丁目八番地　吉田進

印刷者　同　市神田區錦町三丁目廿五番地　竹内友三郎

發行所　同　市京橋區新富町五丁目十七番地　日本園藝會假事務所

（印刷所　東京神田錦町三丁目廿五番地　熊田活版所）



版權所有



国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50

ガラス使用

特 7
2
50

pondance francaise

English correspondence

# NIQUE JOURNAL HORTICOLE JAPONAIS

Fondé en Avril 1889

## JOURNAL

DE LA

SOCIETE D' HORTICULTURE DU JAPON.

No. 43.

June 1893

## JOURNAL

OF THE

JAPANESE HORTICULTURAL SOCIETY.

## ZEITSCHRIFT

DER

JAPANISCHEN GARTENBAU GESELLSCHAFT.

Publication mensuelle.

Abonnement: un an, 12 francs pour tous les Pays faisant partie de l'Union postale.

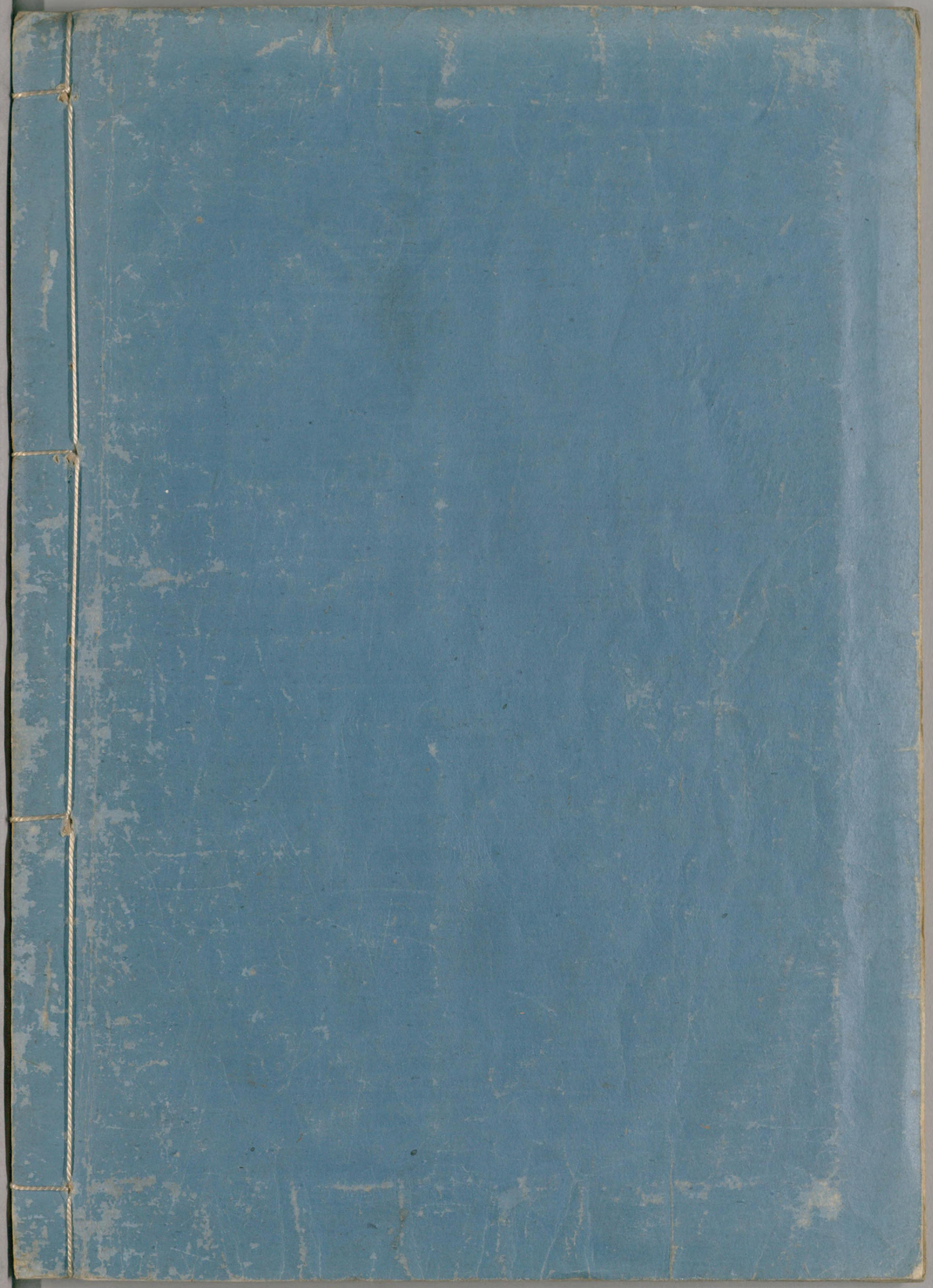
Les annonces seront, sur demande, traduites en Japonais et insérées au prix de 9 francs pour une demi-page.

S' adresser a Mr. S. Yosida, No. 8. Hidamatchi Rokutchome Tokio (Japon).

Deutsche correspondenz

国立国会図書館　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』 請求記号 特7-50

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『一白圃艸木画譜 2巻』　請求記号 特7-50

ガラス使用